

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870600297
法人名	有限会社 エンジェル・コール
事業所名	グループホーム フルーツの家
所在地	愛媛県西条市朔日市807番地
自己評価作成日	平成 25 年 10 月 10 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・職員皆で考えた理念である「和やかで、笑顔あふれる生活づくり」に近づけるよう、利用者の方の思いを第一に考え、安心して穏やかに過ごせるよう支援している。
 ・職員は笑顔を大切に、優しい声かけや対応を心がけている。
 ・庭に畑や花壇を作り、季節の野菜や草花の手入れや収穫を利用者の方と一緒にすることで、五感への働きかけをしている。
 ・リハビリ室を設置しており、機能低下の予防やレクリエーションを行い交流の場となっている。
 ・ホームの玄関に掲示板を使用し、行事の写真や予定を貼ってわかりやすくしている。
 ・夏祭り大会や餅つき大会を毎年行い、家族の方々や地域の方々にも参加してもらっている。
 ・年に4回、家族の方に写真付きの手紙を送り、ホームでの暮らしぶりや近況の情報を伝えるにしている。
 ・誕生日や敬老の日、クリスマスのプレゼントは手作りを心がけている。
 ・年2回の防火訓練(消防署員指導)と、毎月1回、避難訓練を行っている。
 ・毎月、実技を取り入れた勉強会や、勤続年数ごとの研修を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。
 ・近隣に協力医療機関があり、1回/2週の往診や希望時はいつでも受診ができる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 11 月 12 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所はクラレの社宅を改造して1棟に3ユニット、広い庭を挟んでもう1棟に2ユニットを開設している。社宅の間取りをうまく利用して、居室やリビング、調理場等を設けている。広い庭には桜や柿等の大きな木や、いたるところに草花が植えられている。畑では野菜を作り、季節を感じることができる。隣接する病院や保育園、企業とも交流がある。運営会社は勉強会に熱心に取組み、職員のレベルアップを図っている。耐震構造の問題で移転する予定があり、職員は「利用者ごとまどうのではないか。」と、利用者本意に考え検討している。また「笑顔で明るく感謝の気持ちを忘れない。」という今年の目標を掲げ、職員全員が意欲的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 フルーツの家 1号棟

(ユニット名) 1ユニット

記入者(管理者)

氏名 伊藤 仁美

評価完了日 平成 25 年 10 月 10 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念は、利用者の方一人一人が、笑って穏やかに生活を送ってもらえるようにとの思いを持ち、勉強会や社内、社外の研修、業務を通して取り組んでいる。また、朝の申し送りで共有できるようにスタッフ全員で理念を復唱している。</p> <p>(外部評価) 開設時に職員で話し合い「和やかで笑顔あふれる生活づくり」という理念を作成し、定期的に見直しも行っているが、職員の思い入れもあり現在も継続して掲げている。理念は申し送り時に唱和し、研修や勉強会でも確認し合い共有して実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 市の相談員、学校、近所の保育園やお店などと交流がある。地域のイベントにも参加している。年に1回、夏祭り大会を開催し、地域の方々に参加してもらっている。</p> <p>(外部評価) 隣接する保育園の行事やクラレの感謝祭等に参加し交流を深めている。クラレ工場内での花見は、一般開放日の前に招待があり、クラレ職員の協力を得ながらゆっくり花見を楽しむことができる。事業所の夏祭りには地域の人や企業の方を招待したり、西条祭りでだんじりを見物するなど積極的に交流している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 市町村と連絡を取り、介護教室や認知症介護を受託している。運営推進会議においても、ミニ介護講座などを取り入れている。中学生の職場体験学習の受け入れを行ったり、高校の授業で講演を行ったりしている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 開催時には、設備やサービス内容、行事などについて沢山の意見を頂いている。話し合う場を持ち改善できる事はすぐに実行、報告している。また、報告書を作成しており職員全員が報告書に目を通し、サービスの向上に努めている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、家族、保育園、郵便局、警察、消防、地域包括支援センター等多方面からの参加を得て開催している。年度初めには年間計画を立て、家族や参加者に配布している。参加できなかった方には会議録や資料を郵送している。事業所の報告や積極的な意見交換を行っている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ホーム内での事故や苦情等は、連絡や相談させてもらっている。何かあった時には、市町村へ連絡し、適切な発言や指導をしてもらう事で、サービス等の質の向上を図っている。市の相談員が定期的に1度訪問してくれる。3ヵ月に1度、サービス向上連絡会に出席している。</p> <p>(外部評価) 市職員は運営推進会議に毎回参加している。事業所からは3か月に1回開催される西条市介護サービス向上連絡会に参加して情報交換している。また定期的に介護相談員の訪問があり、アドバイスをもらっている。事故報告もその都度行い、事業所の実情を報告し意見をもらう等、協力関係ができています。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 遠出やベッドから転倒する可能性のある方は、家族の方とも相談し、身体拘束しない方法を考えている。(家族の方からの承諾、希望があればベッド柵をしている)</p> <p>(外部評価) 毎月の社内研修会等で、身体拘束について正しく理解できるよう確認している。言葉や態度による拘束についても話し合い、1か月毎のテーマを決めて身体拘束をしないケアを実践している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 社内研修で虐待について学ぶ機会を持っている。また、社外での研修の参加で、学ぶ様になっている。日々の中で、虐待になりかねない行為は、職員間で話し合っている。お互いに注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に出来るだけ参加し、報告書を作成している。研修会に参加出来なかった職員は報告書に目を通す事で周知できるように努力している。他ユニットに成年後見制度を利用している方がいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 時間をかけて利用者の方や家族の方が理解し納得できるように話し合っている。その時に限らず、その都度話し合う時間を取っている。管理者職員で対応できないことは代表者に報告し対応している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 気軽に言ってもらえる雰囲気作りを心がけている。運営推進会議、家族会等を定期的で開催し、意見をまとめ、出来る事の改善をしている。また、家族会ではアンケートにて意見や要望を頂き、サービスの質の向上に取り組んでいる。月に1度、市の相談員が来てくれ、相談業務を行ってくれている。 (外部評価) 年に1回、家族会を開催している。スライドで利用者の生活や行事に参加した時の様子を見てもらったり、家族だけで話し合う時間を設け、率直な意見を出してもらっている。また、参加できない家族にはアンケートを送り意見もらっている。出された意見はケース検討会等で共有しサービス向上に活かしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 月に1回全員参加の各部署会議や毎朝の申し送り等にて職員の意見を聞く機会を設けている。また、職員にて各チーム（研修チーム、手紙チーム、安全衛生チーム、社内新聞チーム等）を運営し、意見や提案を取り入れ、反映させている。</p> <p>(外部評価) 管理者は、職員の意見を個別に聞き取ったり、朝の申し送り時に聞いている。研修チーム・手紙チーム・安全衛生チーム・社内新聞チーム・環境整備チームを設け、それぞれ職員が責任を持ち、積極的に意見やアイデアを出せる仕組みがある。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 代表者は管理者や各職員個々の努力や勤務状況をその都度話し合う時間を持ち確認している。また、資格取得に対しての支援を行い、やりがいや向上心を持って働けるような職場環境である。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 社内で研修チームを設置し、勤務年数に応じて研修を行っている。その他、実技の勉強会もしている。社外での研修には職員の力量に応じて参加し、研修内容は報告書にて職員全員が周知できるようにしている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 他のホームの運営推進会議に参加させてもらったり、自ホームの運営推進会議に参加してもらい、同業者と交流する機会を持ち、良い所を職員間で報告や相談をしたり、助言を受けたりしながらサービスの質の向上に努めている。また、社外での研修にて意見交換を行っている。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) サービスの利用開始時には特にゆっくりと時間を取りながら、要望について聞きフェイスシートに記入し職員間で共有している。また、不安が少しでも軽減できるように、ゆっくりと話をしたり、表情や態度から気持ちが理解できるように、側で過ごすように努めている。本人さんのペースを大切にし、常に笑顔で寄り添えるよう心掛けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービスの利用開始時には、特に時間を取るよう心がけ、必ず困っていることや不安なこと、意向や要望などを聴くように努めている。新規入居の場合には、小まめに電話連絡や面会時に様子を伝え相談するようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用者の方や家族の方が安心して本音を話せるように笑顔で接し、今、何が必要かを相談した上で対応させてもらっている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の方の得意としている事や、昔の職業など日常の会話から情報を集めフェイスシートに記入し、職員間で共有している。その情報を元に、役割を持ってもらったり教えてもらったりしながら共に暮らしている。また、教えてもらった時には感謝の気持ちを伝えるよう心がけている。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時にはゆっくと過ごしてもらい、生活状況の報告をしている。状態の変化時には、随時報告を行っている。また、行事などもできるだけ利用者の方と過ごしてもらえるように手紙等で参加の呼びかけをしている。行事の内容を掲示板や社内新聞で報告し、利用者の方と家族の方の関係を深めるように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会時など馴染みの人とゆっくと過ごす時間を持つよう支援している。また、ひ孫さんの運動会や慣れ親しんだ場所へドライブに出掛けるようにしている。以前行っていたデイサービス（エンジェル・コール内）へも時々遊びに行っている方もいる。利用者の方全員への支援は十分ではないが、本人さんの意向を聴くように努めている。 (外部評価) 利用者の昔の生活や馴染みの関係を把握しフェイスシートを作成し、利用者毎のファイルにまとめている。利用者の希望で知人に会ったり、電話や手紙のやり取りで関係が途切れないよう支援に努めている。また、新しい馴染みの関係継続の支援にも努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 関わりの深い利用者の方同士でゆっくりと話せる様に席を考慮し対応している。状況に応じて職員が見守りなどを行い、利用者の方同士の関係を築けるように配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院中の利用者の方には職員が再々面会に行っており、相談を受けたりすることもある。また、家族との関係がなくならないように連絡し、相談しやすい雰囲気作りを心がけている。また、病棟やケースワーカーを通して病状の把握に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人さんや家族の方が意向を言いやすい様な雰囲気に心がけており、普段の会話の中からも情報を得られるようにしている。得た情報はフェイスシートを利用し、職員間で情報の共有を行っている。意向を把握しにくい方に関しては、家族の方に相談したり本人さんの表情や言葉から思いをくみ取れるよう努力している。 (外部評価) 入居者情報ノートに勤務者全員がリハビリや入浴等1日の中であったことを記入したり、日常会話で聞いたこと等を利用者の言葉で記入している。大切なことはケース記録に転記して利用者本位に検討している。利用者の表情や声のトーンから気分を読み取る等、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人さんや家族の方から得た情報は、フェイスシートを利用し、職員間で共有している。また、同一法人内の他事業所を利用していた方に関しては、情報を提供してもらっている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) カルテやフェイスシート、アセスメントシートなどを用いて、現状の把握に努めている。また、病状の変化については、その都度カルテに記載し、医師からの指示は赤字で囲み解りやすくしている。大きな変化などは、介護計画書、フェイスシートに付け足し、現状の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 面会時や、適宜、ケース検討会やサービス担当者会を行い、それぞれの意見を聴き、介護計画書に反映したり、状態の変化時はその都度介護計画書の見直しを行っている。 (外部評価) 利用者や家族の思いや意向を把握し、介護計画に反映させている。家族にも参加してもらいサービス担当者会議を行い、3か月に1回モニタリングを実施し、6か月毎に見直しを行っている。状態に変化があればその都度見直しをしている。職員が自由に見ることができるようファイリングされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子はカルテに記載している。また、気づきや状態の変化は、介護計画書の空きスペースに記入するなどして、介護計画書の見直しに活かしている。情報の共有については、朝夕の申し送りや入居者情報を使い情報を伝達している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 通院など必要な支援は柔軟に対応するように努めている。また、家族の方からは、リハビリの要望が多く、リハビリ室の利用を行っている。他のユニットや通所介護の方も来るので、馴染みの関係もできている。訪問看護も併設しているので医療面では、フォローしてもらっている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 市の相談員の方や、警察、消防の方などの協力は得られている。また、季節によって利用者の方に合わせて、身近な公園やお花が咲く観光スポット等の地域資源の利用を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 状態の変化に応じて、適宜、協力病院にて受診が行えるよ うになっている。また、本人さんや家族の方の希望を大切 にし、馴染みのかかりつけ医での受診も行っている。</p> <p>(外部評価) 隣接する西条中央病院が協力病院となっており、2週間に 1回の往診がある。歯科医の往診もあり、専門医受診が必 要な場合は家族に付き添ってもらったり、職員が対応した りしている。受診後は受診情報を記録し、関係者が共有し ている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 訪問看護が併設しており、看護師が利用者の方と関わる時 間もあり、情報や気付きを共有している。健康管理や医療 面でも協力してもらっている。また、体調の変化等にも対 応してもらっている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 主治医、病棟師長、ケースワーカーとの連携を持ち、退院 後の受け入れ態勢を整えるように努めている。また、普段 よりケースワーカーとの関わりを持ったり、医療機関の勉 強会に参加するなど、関係作りに努めている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 本人さんや家族の方の希望を大切にしながら、医師を含め ての話し合いを持っている。また、終末期に対しての指針 を定めており、説明も十分に行っている。(家族の方、主 治医の協力がある。医療行為は行わない。)職員間の意識 の確認も行っている。指針、家族の同意書、職員の対応方 法をファイルしている。</p> <p>(外部評価) 入所時に看取りについて事業所のできることでできないこと を説明し、利用者や家族の希望を聞いている。緊急時の対 応や方法について、職員が学習する機会を設けている。看 取りの指針を作成し、病院や訪問看護ステーションと連携 を図っている。状態の変化に応じて家族等と話し合いを行 い、安心して最期を迎えられるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や事故時の対応については、定期的に社内の勉強会や研修で実技指導を行ったり、消防署から救急隊員に来てもらい、訓練指導をしてもらっている。また、マニュアルの作成を行い、いつでも閲覧できるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎月、避難訓練を行い、3回/年の訓練時は消防署の協力もあり行っている。今年度も毎月の避難訓練の実施と消防署員立ち合いの夜間想定・津波想定での避難訓練を実施しており、災害対策に備えている。近隣の病院や企業に協力の依頼をしている。 (外部評価) 防災訓練を昼夜を想定して年2回、津波訓練を年1回消防署立会いのもと実施している。また、防火管理者を決めて毎月避難訓練の企画書を作成し、危機感を持って訓練に臨んでいる。津波訓練はフジグラン屋上駐車場まで実際に移動してみるなど、いざという時の実効性のある訓練を行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 人生の先輩として、人格を尊重し関わりを持つように心がけている。今後も日々の関わりの中で、利用者の方の誇りやプライバシーを損ねかねない言葉かけや対応が出来ているか、職員同士が声を掛け合い常に気を付けていくようにしていきたい。 (外部評価) 利用者一人ひとりの人格を大切にし、人生の先輩として接するよう心がけている。急に大きな声で呼んだり、後ろから声かけすることのないように、目を見て話すようにしている。気になる声かけや態度があればその都度話し合い、研修会でも確認し合いプライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 質問は分かりやすく、答えやすいように心がけている。会話の中でも、思いや希望が言いやすい雰囲気づくりに取り組んでいる。水分補給時には、コーヒーやココアなどの中から、自己決定できる場面作りに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その人に合わせて、その日をどう過ごしたいかを尋ね、できる限り利用者の方のペースに合わせているが、外出支援などの時間は職員側の都合になってしまっている場合がある為、職員間で協力していきたい。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 入浴時や更衣の時に、なるべく服を選んでもらえるようにしている。起床時に洗顔した時に鏡を見ながら櫛で髪をといてもらったり、整容してもらっている。本人の希望があれば、指輪やブレスレット、ネックレス等、怪我につながらない範囲でおしゃれを楽しんでもらっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事作りは厨房スタッフが行っているが、一部さやえんどうの筋取りや柿の皮むき、おやつ作り等は利用者の方も一緒に行っている。食事の時には、スタッフも一緒に食事をして、会話を楽しみながら食事をしてもらえるように心掛けている。昨年に比べて食事作りをする機会が増えている。 (外部評価) 日常会話の中で好きな食べ物を聞き取り、一人ひとりの嗜好や希望を把握し一覧表にして厨房に掲示している。管理栄養士が献立を立て厨房スタッフが調理をしている。利用者には皮むき等、できることを手伝ってもらっている。誕生日には好みのメニューを提供したり、外食の希望があれば一緒に出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士が栄養バランスを考え献立を作成している。排泄記録表に、食事や水分摂取量を記入し、必要量が確保できるように心がけている。また、状態に合わせて、水分量や食事内容などを工夫している	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後には口腔ケアを行うよう声かけをしている。十分でない利用者の方には一部介助をしている。義歯が気になる人は、職員が清潔に管理するなど対応している。定期的に義歯はポリドントをして清潔を保っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 排泄記録表のチェックをして、排泄パターンを知り、その利用者の方に応じた早めの声かけを行っている。始末の仕方やズボンの上げ下げは声をかけて、出来ない部分の介助に心がけている。おむつの使用については、出来るだけ声かけやトイレ誘導を行い、トイレへ座ってもらうようにしている。失敗した際は、自尊心を傷つけないような声かけを心掛けている。</p> <p>(外部評価) 水分や食事摂取量、オムツの種類を記載した排泄記録票を基に利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。声かけを行うことによりトイレでの排泄が可能になった利用者もおり、排泄の自立に向けた支援に努めている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 食物繊維の多い芋類・海藻・豆・きのこ・野菜類などは毎日食べてもらっている。水分を十分に補うようにしている。また、リハビリ室の利用やホーム周辺の散歩などを行い、体を動かすようにしている。医師の指示のもと、看護師が下剤の調整をしている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 出来るだけ、希望に近づけるよう努力している。夜間帯は職員が少ないので、行えていない。曜日や時間帯などは決めておらず、入りたいと希望のある方に入ってもらうようにしている。いつでも入浴してもらえるよう、職員は、入浴道具（Tシャツ等）を常に用意している。</p> <p>(外部評価) 入浴の順番は特に決めず、利用者全員に声かけし希望者は毎日入浴することができる。入浴の苦手な利用者は職員が交代で声かけする等配慮し、週2～3回は入浴できるように努めている。好みの入浴剤を使う等、気持ちよく入浴できるように工夫している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) その方に応じて時間帯を考えて、居室で休んでもらうように心がけている。また、ソファや備え付けのベンチなど、ゆっくり過ごせるようにしている。居室だけでなく、共有スペースの環境整備もしている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の説明がされているものをカルテに綴じて理解できるように努力している。また、わからない時には看護師に確認している。症状の変化時には看護師に連絡し、主治医と相談してもらっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 嗜好品については、食事以外でスーパーへ一緒に買い物へ行き、食べてもらったりしている。また、季節ごとに花を見に出かけたり畑で野菜を作り、柿を育て、収穫など分担して行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者の方の希望で買い物に出かけたり、奥さんのお見舞いに行ったり、家族の方の協力で一緒に自宅へ帰ったり出来るよう支援している。ユニット間でも声をかけ合い利用者の方が車椅子を利用している方を押し、一緒に外出することもある。 (外部評価) 敷地が広くゆっくり散歩できる環境があり、毎日夕方に散歩する利用者もいる。四季折々に市民の森やマイントピア別子等へ出かけている。利用者数が多いため日程や時間をずらして出かけている。また、利用者一人ひとりの希望により個別に買い物に出たり、家族の協力を得ながら家に帰るなどの外出支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お小遣いに関しては自己管理が難しい為、ホームにて管理している。利用者の方が希望された時にはホームで立て替えし、後日家族の方へ請求をさせてもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話や手紙は、携帯電話を持たれている方以外は、本人さんが連絡を取りたい時などにやり取りができるようにとスタッフも周知しているが、現状本人さんからの希望が少ない。今後本人さんの希望があれば家族の方に働きかけて行く様に努めていく。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 脱衣場では、出来るだけ、温度差がないように気を付けている。ホールには、季節に応じたものを飾るようにしている。状態に応じて、テーブルの配置等も考えるようにしている。レースのカーテンを使用して眩しすぎないようにしている。廊下に備え付けのベンチがあり、ホールにもソファを置いて寛げるようにしている。音も大きな音が出ないように配慮し、大きな音が出た場合には、お断りするようになっている。</p> <p>(外部評価) クラレ社宅を改造して作られた事業所は老朽化は否めないが、内部は職員の工夫で暖かい落ち着いた雰囲気が感じられる。利用者が生け花をして季節の花を飾り、食事時のテーブルの配置や利用者の座席にも工夫が見られる。また、各所にソファを設置し思い思いの場所でくつろぐことができるよう配慮されている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ホールにソファを置き、いつでも誰でも座れるようにしている。また、廊下にも木のベンチを設置し、一人でいたり気の合った人と座って話ができるようにしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 少しずつではあるが、家で使っていたタンス等、持って来て使っている。出来るだけ利用者の方の希望する物を、本人さんや家族の方と相談し、用意出来るよう努め、居心地よく過ごせるように工夫している。</p> <p>(外部評価) 利用者の希望や状態に応じて畳かベッドを選択することができる。居室にはテレビや布団が常備されており、毛布、枕等は使い慣れた馴染みの物を使用してもらっている。タンス、小物入れ、写真、ぬいぐるみ等を持ち込み、落ち着いて過ごすことができるよう工夫している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 建物内はバリアフリーであり、各所に手すりを設置している。また、環境整備を行い歩行の障害にならないように心がけている。居室には果物の絵を貼り、目印にしている。トイレや浴室にも表示があり、わかりやすくしている。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870600297
法人名	有限会社 エンジェル・コール
事業所名	グループホーム フルーツの家
所在地	愛媛県西条市朔日市807番地
自己評価作成日	平成 25 年 10 月 10 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・職員皆で考えた理念である「和やかで、笑顔あふれる生活づくり」に近づけるよう、利用者の方の思いを第一に考え、安心して穏やかに過ごせるよう支援している。
 ・職員は笑顔を大切に、優しい声かけや対応を心がけている。
 ・庭に畑や花壇を作り、季節の野菜や草花の手入れや収穫を利用者の方と一緒にすることで、五感への働きかけをしている。
 ・リハビリ室を設置しており、機能低下の予防やレクリエーションを行い交流の場となっている。
 ・ホームの玄関に掲示板を使用し、行事の写真や予定を貼ってわかりやすくしている。
 ・夏祭り大会や餅つき大会を毎年行い、家族の方々や地域の方々にも参加してもらっている。
 ・年に4回、家族の方に写真付きの手紙を送り、ホームでの暮らしぶりや近況の情報を伝えるにしている。
 ・誕生日や敬老の日、クリスマスのプレゼントは手作りを心がけている。
 ・年2回の防火訓練(消防署員指導)と、毎月1回、避難訓練を行っている。
 ・毎月、実技を取り入れた勉強会や、勤続年数ごとの研修を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。
 ・近隣に協力医療機関があり、1回/2週の往診や希望時はいつでも受診ができる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 11 月 12 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所はクラレの社宅を改造して1棟に3ユニット、広い庭を挟んでもう1棟に2ユニットを開設している。社宅の間取りをうまく利用して、居室やリビング、調理場等を設けている。広い庭には桜や柿等の大きな木や、いたるところに草花が植えられている。畑では野菜を作り、季節を感じることができる。隣接する病院や保育園、企業とも交流がある。運営会社は勉強会に熱心に取組み、職員のレベルアップを図っている。耐震構造の問題で移転する予定があり、職員は「利用者ごとまどうのではないか。」と、利用者本意に考え検討している。また「笑顔で明るく感謝の気持ちを忘れない。」という今年の目標を掲げ、職員全員が意欲的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 フルーツの家 1号棟

(ユニット名) 2ユニット

記入者(管理者)

氏名 伊藤 仁美

評価完了日 平成 25 年 10 月 10 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念は、利用者の方一人一人が、笑って穏やかに生活を送ってもらえるようにとの思いを持ち、勉強会や社内、社外の研修、業務を通して取り組んでいる。また、朝の申し送りで共有できるようにスタッフ全員で理念を復唱している。</p> <p>(外部評価) 開設時に職員で話し合い「和やかで笑顔あふれる生活づくり」という理念を作成し、定期的に見直しも行っているが、職員の思い入れもあり現在も継続して掲げている。理念は申し送り時に唱和し、研修や勉強会でも確認し合い共有して実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 市の相談員、学校、近所の保育園やお店などと交流がある。地域のイベントにも参加している。年に1回、夏祭り大会を開催し、地域の方々に参加してもらっている。</p> <p>(外部評価) 隣接する保育園の行事やクラレの感謝祭等に参加し交流を深めている。クラレ工場内での花見は、一般開放日の前に招待があり、クラレ職員の協力を得ながらゆっくり花見を楽しむことができる。事業所の夏祭りには地域の人や企業の方を招待したり、西条祭りでだんじりを見物するなど積極的に交流している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 市町村と連絡を取り、介護教室や認知症介護を受託している。運営推進会議においても、ミニ介護講座などを取り入れている。中学生の職場体験学習の受け入れを行ったり、高校の授業で講演を行ったりしている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 開催時には、設備やサービス内容、行事などについて沢山の意見を頂いている。話し合う場を持ち改善できる事はすぐに実行、報告している。また、報告書を作成しており職員全員が報告書に目を通し、サービスの向上に努めている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、家族、保育園、郵便局、警察、消防、地域包括支援センター等多方面からの参加を得て開催している。年度初めには年間計画を立て、家族や参加者に配布している。参加できなかった方には会議録や資料を郵送している。事業所の報告や積極的な意見交換を行っている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ホーム内での事故や苦情等は、連絡や相談させてもらっている。何かあった時には、市町村へ連絡し、適切な発言や指導をしてもらう事で、サービス等の質の向上を図っている。市の相談員が定期的に1度訪問してくれる。3ヵ月に1度、サービス向上連絡会に出席している。</p> <p>(外部評価) 市職員は運営推進会議に毎回参加している。事業所からは3か月に1回開催される西条市介護サービス向上連絡会に参加して情報交換している。また定期的に介護相談員の訪問があり、アドバイスをもらっている。事故報告もその都度行い、事業所の実情を報告し意見をもらう等、協力関係ができています。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 社内、社外研修、または勉強会を通して理解し、日頃から身体拘束防止に対する意識を高め、スタッフ間で気を付けるようにしている。玄関の施錠は防犯の観点から夜間のみ行っている(20:00~8:00)。</p> <p>(外部評価) 毎月の社内研修会等で、身体拘束について正しく理解できるよう確認している。言葉や態度による拘束についても話し合い、1か月毎のテーマを決めて身体拘束をしないケアを実践している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 社内研修で虐待について学ぶ機会を持っている。また、社外での研修の参加で、学ぶ様になっている。日々の中で、虐待になりかねない行為は、職員間で話し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に出来るだけ参加し、報告書を作成している。研修会に参加出来なかった職員は報告書に目を通す事で周知できるように努力している。他ユニットに成年後見制度を利用している方がいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 時間をかけて利用者の方や家族の方が理解し納得できるように話し合っている。その時に限らず、その都度話し合う時間を取っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 気軽に言ってもらえる雰囲気作りを心がけている。運営推進会議、家族会等を定期的で開催し、意見をまとめ、出来る事の改善をしている。また、家族会ではアンケートにて意見や要望を頂き、サービスの質の向上に取り組んでいる。月に1度、市の相談員が来てくれ、相談業務を行ってくれている。	
			(外部評価) 年に1回、家族会を開催している。スライドで利用者の生活や行事に参加した時の様子を見てもらったり、家族だけで話し合う時間を設け、率直な意見を出してもらっている。また、参加できない家族にはアンケートを送り意見もらっている。出された意見はケース検討会等で共有しサービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 月に1回全員参加の各部署会議や毎朝の申し送り等にて職員の意見を聞く機会を設けている。また、職員にて各チーム（研修チーム、手紙チーム、安全衛生チーム、社内新聞チーム等）を運営し、意見や提案を取り入れ、反映させている。</p> <p>(外部評価) 管理者は、職員の意見を個別に聞き取ったり、朝の申し送り時に聞いている。研修チーム・手紙チーム・安全衛生チーム・社内新聞チーム・環境整備チームを設け、それぞれ職員が責任を持ち、積極的に意見やアイデアを出せる仕組みがある。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 代表者は管理者や各職員個々の努力や勤務状況をその都度話し合う時間を持ち確認している。また、資格取得に対する支援を行い、やりがいや向上心を持って働けるような職場環境である。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 社内で研修チームを設置し、勤務年数に応じて研修を行っている。その他、実技の勉強会もしている。社外での研修には職員の力量に応じて参加し、研修内容は報告書にて職員全員が周知できるようにしている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 他のホームの運営推進会議に参加させてもらったり、自ホームの運営推進会議に参加してもらい、同業者と交流する機会を持ち、良い所を職員間で報告や相談をしたり、助言を受けたりしながらサービスの質の向上に努めている。また、社外での研修にて意見交換を行っている。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) サービスの利用開始時には特にゆっくりと時間を取りながら、要望について聞きフェイスシートに記入し職員間で共有している。また、不安が少しでも軽減できるように、ゆっくりと話をしたり、表情や態度から気持ちが理解できるように、側で過ごすように努めている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービスの利用開始時には、特に時間を取るよう心がけ、必ず困っていることや不安なこと、意向や要望などを聴くように努めている。新規入居の場合には、小まめに電話連絡や面会時に様子を伝え相談するようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用者の方や家族の方が安心して本音を話せるように笑顔で接し、今、何が必要かを相談した上で対応させてもらっている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の方の得意としている事や、昔の職業などを把握し、役割を持ってもらったり教えてもらったりしながら共に暮らしている。また、教えてもらった時には感謝の気持ちを伝えるよう心がけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時にはゆっくと過ごしてもらい、生活状況の報告をしている。状態の変化時には、随時報告を行っている。また、行事などもできるだけ利用者の方と過ごしてもらえるように手紙等で参加の呼びかけをしている。行事の内容を掲示板や社内新聞で報告し、利用者の方と家族の方の関係を深めるように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会時など馴染みの人とゆっくと過ごす時間を持つよう支援している。また、親しい人との外食や慣れ親しんだ場所へドライブに出掛けるようにしている。利用者の方全員への支援は十分ではないが、本人さんの意向を聴くように努めている。 (外部評価) 利用者の昔の生活や馴染みの関係を把握しフェイスシートを作成し、利用者毎のファイルにまとめている。利用者の希望で知人に会ったり、電話や手紙のやり取りで関係が途切れないよう支援に努めている。また、新しい馴染みの関係継続の支援にも努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 関わりの深い利用者の方同士でゆっくりと話せる様に席を考慮し対応している。状況に応じて職員が見守りなどを行い、利用者の方同士の関係を築けるように配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院中の利用者の方には職員が再々面会に行っており、相談を受けたりすることもある。また、家族との関係がなくならないように連絡し、相談しやすい雰囲気作りを心がけている。また、病棟やケースワーカーを通して病状の把握に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人さんや家族の方が意向を言いやすい様な雰囲気に心がけており、得た情報はフェイスシートを利用し、職員間で情報の共有を行っている。意向を把握しにくい方に関しては、家族の方に相談したり本人さんの表情や言葉から思いをくみ取れるよう努力している。 (外部評価) 入居者情報ノートに勤務者全員がリハビリや入浴等1日の中であったことを記入したり、日常会話で聞いたこと等を利用者の言葉で記入している。大切なことはケース記録に転記して利用者本位に検討している。利用者の表情や声のトーンから気分を読み取る等、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人さんや家族の方から得た情報は、フェイスシートを利用し、職員間で共有している。また、同一法人内の他事業所を利用していた方に関しては、情報を提供してもらっている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) カルテやフェイスシート、アセスメントシートなどを用いて、現状の把握に努めている。また、病状の変化については、その都度カルテに記載し、医師からの指示は赤字で囲み解りやすくしている。大きな変化などは、介護計画書、フェイスシートに付け足し、現状の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 適宜、ケース検討会やサービス担当者会を行い、それぞれの意見を聴き、介護計画書に反映したり、状態の変化時はその都度介護計画書の見直しを行っている。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族の思いや意向を把握し、介護計画に反映させている。家族にも参加してもらいサービス担当者会議を行い、3か月に1回モニタリングを実施し、6か月毎に見直しを行っている。状態に変化があればその都度見直しをしている。職員が自由に見ることができるようファイリングされている。</p>	介護計画に沿ってサービスの提供はされているので、介護計画を意識した実施記録になるよう記載方法等の工夫を望みたい。また、その実施記録に基づいたモニタリングを行い、利用者と共に達成感を味わいながら、さらに質の高いサービスが提供できるよう今後の取組みを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 日々の様子はカルテに記載している。また、気づきや状態の変化は、介護計画書の空きスペースに記入するなどして、介護計画書の見直しに活かしている。情報の共有については、朝夕の申し送りや入居者情報を使い情報を伝達している。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 通院など必要な支援は柔軟に対応するように努めている。また、家族の方からは、リハビリの要望が多く、リハビリ室の利用を行っている。他のユニットや通所介護の方も来るので、馴染みの関係もできている。訪問看護も併設しているので医療面では、フォローしてもらっている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 市の相談員の方や、警察、消防の方などの協力は得られている。また、季節によって利用者の方に合わせて、身近な公園やお花が咲く観光スポット等の地域資源の利用を行っている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 状態の変化に応じて、適宜、協力病院にて受診が行えるよ うになっている。また、本人さんや家族の方の希望を大切 にし、馴染みのかかりつけ医での受診も行っている。</p> <p>(外部評価) 隣接する西条中央病院が協力病院となっており、2週間に 1回の往診がある。歯科医の往診もあり、専門医受診が必 要な場合は家族に付き添ってもらったり、職員が対応した りしている。受診後は受診情報を記録し、関係者が共有し ている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 情報や気づきは常に看護師に報告している。また、訪問看 護が併設しており、看護師が利用者の方と関わる時間もあ り、相談もしている。健康管理や医療面でも協力しても らっている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 主治医、病棟師長、ケースワーカーとの連携を持ち、退院 後の受け入れ態勢を整えるように努めている。また、普段 よりケースワーカーとの関わりを持ったり、医療機関の勉 強会に参加するなど、関係作りに努めている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 本人さんや家族の方の希望を大切にしながら、医師を含め ての話し合いを持っている。また、終末期に対しての指針 を定めており、説明も十分に行っている。(家族の方、主 治医の協力がある。医療行為は行わない。)職員間の意識 の確認も行っている。</p> <p>(外部評価) 入所時に看取りについて事業所のできることでできないこと を説明し、利用者や家族の希望を聞いている。緊急時の対 応や方法について、職員が学習する機会を設けている。看 取りの指針を作成し、病院や訪問看護ステーションと連携 を図っている。状態の変化に応じて家族等と話し合いを行 い、安心して最期を迎えられるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や事故時の対応については、定期的に社内の勉強会や研修で実技指導を行ったり、消防署から救急隊員に来てもらい、訓練指導をしてもらっている。また、マニュアルの作成を行い、いつでも閲覧できるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎月、避難訓練を行い、3回/年の訓練時は消防署の協力もあり行っている。今年度も毎月の避難訓練の実施と消防署員立ち合いの夜間想定・津波想定での避難訓練を実施する予定で、災害対策に備えている。近隣の病院や企業に協力の依頼をしている。 (外部評価) 防災訓練を昼夜を想定して年2回、津波訓練を年1回消防署立会いのもと実施している。また、防火管理者を決めて毎月避難訓練の企画書を作成し、危機感を持って訓練に臨んでいる。津波訓練はフジグラン屋上駐車場まで実際に移動してみるなど、いざという時の実効性のある訓練を行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 人生の先輩として、人格を尊重し関わりを持つように心がけている。今後も日々の関わりの中で、利用者の方の誇りやプライバシーを損ねかねない言葉かけや対応を出来ているか、職員同士が声を掛け合い常に気を付けていくようにしていきたい。 (外部評価) 利用者一人ひとりの人格を大切にし、人生の先輩として接するよう心がけている。急に大きな声で呼んだり、後ろから声かけすることのないように、目を見て話すようにしている。気になる声かけや態度があればその都度話し合い、研修会でも確認し合いプライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 質問は分かりやすく、答えやすいように心がけている。会話の中でも、思いや希望が言いやすい雰囲気づくりに取り組んでいる。水分補給時には、コーヒーやココアなどの中から、自己決定できる場面作りに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その人に合わせて、その日をどう過ごしたいかを尋ね、できる限り利用者の方のペースに合わせるように努めているが、外出支援などの時間は職員側の都合になってしまっている場合がある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 入浴時や更衣の時に、なるべく服を選んでもらえるようにしている。起床時に洗顔した時に鏡を見ながら櫛で髪をといてもらったり、整容してもらっている。自分でできない方は、職員がタオルで顔を拭いたり髪をといている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事作りは厨房スタッフが行っているが、時々さやえんどうの筋取り、海老の殻むきの下準備をする。野菜を切ったり、干し柿作りでは柿の皮むきをしている。 (外部評価) 日常会話の中で好きな食べ物を聞き取り、一人ひとりの嗜好や希望を把握し一覧表にして厨房に掲示している。管理栄養士が献立を立て厨房スタッフが調理をしている。利用者には皮むき等、できることを手伝ってもらっている。誕生日には好みのメニューを提供したり、外食の希望があれば一緒に出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士が栄養バランスを考え献立を作成している。排泄記録表に、食事や水分摂取量を記入し、必要量が確保できるように心がけている。また、状態に合わせて、水分量や食事内容などを工夫している	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後には口腔ケアを行うよう声かけをしている。十分でない利用者の方には一部介助をしている。義歯が気になる人は、職員が清潔に管理するなど対応している。定期的に義歯はポリドントをして清潔を保っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 排泄記録表のチェックをして、排泄パターンを知り、その利用者の方に応じた早めの声かけを行っている。始末の仕方やズボンの上げ下げは声をかけて、出来ない部分の介助に心がけている。おむつの使用については、出来るだけ声かけやトイレ誘導を行い、トイレへ座ってもらうようにしている。</p> <p>(外部評価) 水分や食事摂取量、オムツの種類を記載した排泄記録票を基に利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。声かけを行うことによりトイレでの排泄が可能になった利用者もおり、排泄の自立に向けた支援に努めている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 食物繊維の多い芋類・海藻・豆・きのこ・野菜類などは毎日食べてもらっている。水分を十分に補うようにしている。また、リハビリ室の利用やホーム周辺の散歩などを行い、体を動かすようにしている。医師の指示のもと、看護師が下剤の調整をしている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 出来るだけ、希望に近づけるよう努力している。夜間帯は職員が少ないので、行えていない。曜日などは決めておらず、入りたいと希望のある方に入ってもらっている。</p> <p>(外部評価) 入浴の順番は特に決めず、利用者全員に声かけし希望者は毎日入浴することができる。入浴の苦手な利用者は職員が交代で声かけする等配慮し、週2～3回は入浴できるように努めている。好みの入浴剤を使う等、気持ちよく入浴できるように工夫している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) その方に応じて時間帯を考えて、居室で休んでもらうように心がけている。また、ソファや備え付けのベンチなど、ゆっくり過ごせるようにしている。居室だけでなく、共有スペースの環境整備もしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の説明がされているものをカルテに綴じて理解できるように努力している。また、わからない時には看護師に確認している。症状の変化時には看護師に連絡し、主治医と相談してもらっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 嗜好品については、食事以外でスーパーへ一緒に買い物へ行き、食べてもらったりしている。また、季節ごとに花を見に出かけたり畑で野菜や果物を作り、さくらんぼやじゃがいも掘り、さつまいも掘りをして、収穫の喜びを味わってもらっている。毎日洗濯物をたたんだり、テーブルを拭いている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩の希望がある方には、他の利用者の方と一緒に庭や周辺を歩いている。利用者の方の希望で買い物に出かけたり、家族の方の協力で一緒に自宅へ帰ったり出来るよう支援している。ユニット間でも声をかけ合い利用者の方が車椅子を利用している方を押し、一緒に外出することもある。 (外部評価) 敷地が広くゆっくり散歩できる環境があり、毎日夕方に散歩する利用者もいる。四季折々に市民の森やマイントピア別子等へ出かけている。利用者数が多いため日程や時間をずらして出かけている。また、利用者一人ひとりの希望により個別に買い物に出たり、家族の協力を得ながら家に帰るなどの外出支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 紛失しないようにお金はホームではお預かりしていない。利用者の方が希望された時にはホームで立て替えし、後日家族の方へ請求をさせてもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話や手紙は、本人さんが連絡を取りたい時などにやり取りができるようにとスタッフも周知しているが、現状本人さんからの希望が少ない。今後本人さんの希望があれば家族の方に働きかけて行く様に努めていく。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 脱衣場では、出来るだけ、温度差がないように気を付けている。ホールには、季節に応じたものを飾るようにしている。状態に応じて、テーブルの配置等も考えるようにしている。レースのカーテンを使用して眩しすぎないようにしている。廊下に備え付けのベンチがあり、ホールにもソファを置いて寛げるようにしている。音も大きな音が出ないように配慮し、大きな音が出た場合には、お断りするようになっている。</p> <p>(外部評価) クラレ社宅を改造して作られた事業所は老朽化は否めないが、内部は職員の工夫で暖かい落ち着いた雰囲気が感じられる。利用者が生け花をして季節の花を飾り、食事時のテーブルの配置や利用者の座席にも工夫が見られる。また、各所にソファを設置し思い思いの場所でくつろぐことができるよう配慮されている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ホールにソファを置き、いつでも誰でも座れるようにしている。また、廊下にも木のベンチを設置し、一人でいたり気の合った人と座って話ができるようにしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 少しずつではあるが、家で使っていたタンス等、持って来て使っている。出来るだけ利用者の方の希望する物を、本人さんや家族の方と相談し、用意出来るよう努め、居心地よく過ごせるように工夫している。</p> <p>(外部評価) 利用者の希望や状態に応じて畳かベッドを選択することができる。居室にはテレビや布団が常備されており、毛布、枕等は使い慣れた馴染みの物を使用してもらっている。タンス、小物入れ、写真、ぬいぐるみ等を持ち込み、落ち着いて過ごすことができるよう工夫している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 建物内はバリアフリーであり、各所に手すりを設置している。また、環境整備を行い歩行の障害にならないように心がけている。居室には果物の絵を貼り、目印にしている。トイレや浴室にも表示があり、わかりやすくしている。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870600297
法人名	有限会社 エンジェル・コール
事業所名	グループホーム フルーツの家
所在地	愛媛県西条市朔日市807番地
自己評価作成日	平成 25 年 10 月 10 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 11 月 12 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・職員皆で考えた理念である「和やかで、笑顔あふれる生活づくり」に近づけるよう、利用者の方の思いを第一に考え、安心して穏やかに過ごせるよう支援している。
 ・職員は笑顔を大切に、優しい声かけや対応を心がけている。
 ・庭に畑や花壇を作り、季節の野菜や草花の手入れや収穫を利用者の方と一緒にすることで、五感への働きかけをしている。
 ・リハビリ室を設置しており、機能低下の予防やレクリエーションを行い交流の場となっている。
 ・ホームの玄関に掲示板を使用し、行事の写真や予定を貼ってわかりやすくしている。
 ・夏祭り大会や餅つき大会を毎年行い、家族の方々や地域の方々にも参加してもらっている。
 ・年に4回、家族の方に写真付きの手紙を送り、ホームでの暮らしぶりや近況の情報を伝えるにしている。
 ・誕生日や敬老の日、クリスマスのプレゼントは手作りを心がけている。
 ・年2回の防火訓練(消防署員指導)と、毎月1回、避難訓練を行っている。
 ・毎月、実技を取り入れた勉強会や、勤続年数ごとの研修を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。
 ・近隣に協力医療機関があり、1回/2週の往診や希望時はいつでも受診ができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所はクラレの社宅を改造して1棟に3ユニット、広い庭を挟んでもう1棟に2ユニットを開設している。社宅の間取りをうまく利用して、居室やリビング、調理場等を設けている。広い庭には桜や柿等の大きな木や、いたるところに草花が植えられている。畑では野菜を作り、季節を感じることができる。隣接する病院や保育園、企業とも交流がある。運営会社は勉強会に熱心に取組み、職員のレベルアップを図っている。耐震構造の問題で移転する予定があり、職員は「利用者ごとまどうのではないか。」と、利用者本意に考え検討している。また「笑顔で明るく感謝の気持ちを忘れない。」という今年の目標を掲げ、職員全員が意欲的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 フルーツの家 1号棟

(ユニット名) 3ユニット

記入者(管理者)

氏名 伊藤 仁美

評価完了日 平成 25 年 10 月 10 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念は、利用者の方一人一人が、笑って穏やかに生活を送ってもらえるようにとの思いを持ち、勉強会や社内、社外の研修、業務を通して取り組んでいる。また、朝の申し送りで共有できるようにスタッフ全員で理念を復唱している。</p> <p>(外部評価) 開設時に職員で話し合い「和やかで笑顔あふれる生活づくり」という理念を作成し、定期的に見直しも行っているが、職員の思い入れもあり現在も継続して掲げている。理念は申し送り時に唱和し、研修や勉強会でも確認し合い共有して実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 市の相談員、学校、近所の保育園やお店などと交流がある。地域のイベントにも参加している。年に1回、夏祭り大会を開催し、地域の方々に参加してもらっている。</p> <p>(外部評価) 隣接する保育園の行事やクラレの感謝祭等に参加し交流を深めている。クラレ工場内での花見は、一般開放日の前に招待があり、クラレ職員の協力を得ながらゆっくり花見を楽しむことができる。事業所の夏祭りには地域の人や企業の方を招待したり、西条祭りでだんじりを見物するなど積極的に交流している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 市町村と連絡を取り、介護教室や認知症介護を受託している。運営推進会議においても、ミニ介護講座などを取り入れている。中学生の職場体験学習の受け入れを行ったり、高校の授業で講演を行ったりしている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 開催時には、設備やサービス内容、行事などについて沢山の意見を頂いている。話し合う場を持ち改善できる事はすぐに実行、報告している。また、報告書を作成しており職員全員が報告書に目を通し、サービスの向上に努めている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、家族、保育園、郵便局、警察、消防、地域包括支援センター等多方面からの参加を得て開催している。年度初めには年間計画を立て、家族や参加者に配布している。参加できなかった方には会議録や資料を郵送している。事業所の報告や積極的な意見交換を行っている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ホーム内での事故や苦情等は、連絡や相談させてもらっている。何かあった時には、市町村へ連絡し、適切な発言や指導をしてもらう事で、サービス等の質の向上を図っている。市の相談員が定期的に1度訪問してくれる。3ヵ月に1度、サービス向上連絡会に出席している。</p> <p>(外部評価) 市職員は運営推進会議に毎回参加している。事業所からは3か月に1回開催される西条市介護サービス向上連絡会に参加して情報交換している。また定期的に介護相談員の訪問があり、アドバイスをもらっている。事故報告もその都度行い、事業所の実情を報告し意見をもらう等、協力関係ができています。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 社内、社外研修、または勉強会を通して理解し、日頃から身体拘束防止に対する意識を高め、スタッフ間で気を付けるようにしている。玄関の施錠は防犯の観点から夜間のみ行っている(20:00~8:00)。</p> <p>(外部評価) 毎月の社内研修会等で、身体拘束について正しく理解できるよう確認している。言葉や態度による拘束についても話し合い、1か月毎のテーマを決めて身体拘束をしないケアを実践している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 社内研修で虐待について学ぶ機会を持っている。また、社外での研修の参加で、学ぶ様になっている。日々の中で、虐待になりかねない行為は、職員間で話し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に出来るだけ参加し、報告書を作成している。研修会に参加出来なかった職員は報告書に目を通す事で周知できるように努力している。他ユニットに成年後見制度を利用している方がいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 時間をかけて利用者の方や家族の方が理解し納得できるように話し合っている。その時に限らず、その都度話し合う時間を取っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 気軽に言ってもらえる雰囲気作りを心がけている。運営推進会議、家族会等を定期的で開催し、意見をまとめ、出来る事の改善をしている。また、家族会ではアンケートにて意見や要望を頂き、サービスの質の向上に取り組んでいる。月に1度、市の相談員が来てくれ、相談業務を行ってくれている。	
			(外部評価) 年に1回、家族会を開催している。スライドで利用者の生活や行事に参加した時の様子を見てもらったり、家族だけで話し合う時間を設け、率直な意見を出してもらっている。また、参加できない家族にはアンケートを送り意見もらっている。出された意見はケース検討会等で共有しサービス向上に活かしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 月に1回全員参加の各部署会議や毎朝の申し送り等にて職員の意見を聞く機会を設けている。また、職員にて各チーム（研修チーム、手紙チーム、安全衛生チーム、社内新聞チーム等）を運営し、意見や提案を取り入れ、反映させている。</p> <p>(外部評価) 管理者は、職員の意見を個別に聞き取ったり、朝の申し送り時に聞いている。研修チーム・手紙チーム・安全衛生チーム・社内新聞チーム・環境整備チームを設け、それぞれ職員が責任を持ち、積極的に意見やアイデアを出せる仕組みがある。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 代表者は管理者や各職員個々の努力や勤務状況をその都度話し合う時間を持ち確認している。また、資格取得に対する支援を行い、やりがいや向上心を持って働けるような職場環境である。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 社内で研修チームを設置し、勤務年数に応じて研修を行っている。その他、実技の勉強会もしている。社外での研修には職員の力量に応じて参加し、研修内容は報告書にて職員全員が周知できるようにしている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 他のホームの運営推進会議に参加させてもらったり、自ホームの運営推進会議に参加してもらい、同業者と交流する機会を持ち、良い所を職員間で報告や相談をしたり、助言を受けたりしながらサービスの質の向上に努めている。また、社外での研修にて意見交換を行っている。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) サービスの利用開始時には特にゆっくりと時間を取りながら、要望について聞きフェイスシートに記入し職員間で共有している。また、不安が少しでも軽減できるように、ゆっくりと話をしたり、表情や態度から気持ちが理解できるように、側で過ごすように努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービスの利用開始時には、特に時間を取るよう心がけ、必ず困っていることや不安なこと、意向や要望などを聴くように努めている。新規入居の場合には、小まめに電話連絡や面会時に様子を伝え相談するようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用者の方や家族の方が安心して本音を話せるように笑顔で接し、今、何が必要かを相談した上で対応させてもらっている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の方の得意としている事や、昔の職業などを把握し、役割を持ってもらったり教えてもらったりしながら共に暮らしている。また、教えてもらった時には感謝の気持ちを伝えるよう心がけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時にはゆっくと過ごしてもらい、生活状況の報告をしている。状態の変化時には、随時報告を行っている。また、行事などもできるだけ利用者の方と過ごしてもらえるように手紙等で参加の呼びかけをしている。行事の内容を掲示板や社内新聞で報告し、利用者の方と家族の方の関係を深めるように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会時など馴染みの人とゆっくと過ごす時間を持つよう支援している。また、親しい人との外食や慣れ親しんだ場所へドライブに出掛けるようにしている。利用者の方全員への支援は十分ではないが、本人さんの意向を聴くように努めている。 (外部評価) 利用者の昔の生活や馴染みの関係を把握しフェイスシートを作成し、利用者毎のファイルにまとめている。利用者の希望で知人に会ったり、電話や手紙のやり取りで関係が途切れないよう支援に努めている。また、新しい馴染みの関係継続の支援にも努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 関わりの深い利用者の方同士でゆっくりと話せる様に席を考慮し対応している。状況に応じて職員が見守りなどを行い、利用者の方同士の関係を築けるように配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院中の利用者の方には職員が再々面会に行っており、相談を受けたりすることもある。また、家族との関係がなくならないように連絡し、相談しやすい雰囲気作りを心がけている。また、病棟やケースワーカーを通して病状の把握に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人さんや家族の方が意向を言いやすい様な雰囲気に心がけており、得た情報はフェイスシートを利用し、職員間で情報の共有を行っている。意向を把握しにくい方に関しては、家族の方に相談したり本人さんの表情や言葉から思いをくみ取れるよう努力している。 (外部評価) 入居者情報ノートに勤務者全員がリハビリや入浴等1日の中であったことを記入したり、日常会話で聞いたこと等を利用者の言葉で記入している。大切なことはケース記録に転記して利用者本位に検討している。利用者の表情や声のトーンから気分を読み取る等、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人さんや家族の方から得た情報は、フェイスシートを利用し、職員間で共有している。また、同一法人内の他事業所を利用していた方に関しては、情報を提供してもらっている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) カルテやフェイスシート、アセスメントシートなどを用いて、現状の把握に努めている。また、病状の変化については、その都度カルテに記載し、医師からの指示は赤字で囲み解りやすくしている。大きな変化などは、介護計画書、フェイスシートに付け足し、現状の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 適宜、ケース検討会やサービス担当者会を行い、それぞれの意見を聴き、介護計画書に反映したり、状態の変化時はその都度介護計画書の見直しを行っている。 (外部評価) 利用者や家族の思いや意向を把握し、介護計画に反映させている。家族にも参加してもらいサービス担当者会議を行い、3か月に1回モニタリングを実施し、6か月毎に見直しを行っている。状態に変化があればその都度見直しをしている。職員が自由に見ることができるようファイリングされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子はカルテに記載している。また、気づきや状態の変化は、介護計画書の空きスペースに記入するなどして、介護計画書の見直しに活かしている。情報の共有については、朝夕の申し送りや入居者情報を使い情報を伝達している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 通院など必要な支援は柔軟に対応するように努めている。また、家族の方からは、リハビリの要望が多く、リハビリ室の利用を行っている。他のユニットや通所介護の方も来るので、馴染みの関係もできている。訪問看護も併設しているので医療面では、フォローしてもらっている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 市の相談員の方や、警察、消防の方などの協力は得られている。また、季節によって利用者の方に合わせて、身近な公園やお花が咲く観光スポット等の地域資源の利用を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 状態の変化に応じて、適宜、協力病院にて受診が行えるよ うになっている。また、本人さんや家族の方の希望を大切 にし、馴染みのかかりつけ医での受診も行っている。</p> <p>(外部評価) 隣接する西条中央病院が協力病院となっており、2週間に 1回の往診がある。歯科医の往診もあり、専門医受診が必 要な場合は家族に付き添ってもらったり、職員が対応した りしている。受診後は受診情報を記録し、関係者が共有し ている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 情報や気づきは常に看護師に報告している。また、訪問看 護が併設しており、看護師が利用者の方と関わる時間もあ り、相談もしている。健康管理や医療面でも協力しても らっている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 主治医、病棟師長、ケースワーカーとの連携を持ち、退院 後の受け入れ態勢を整えるように努めている。また、普段 よりケースワーカーとの関わりを持ったり、医療機関の勉 強会に参加するなど、関係作りに努めている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 本人さんや家族の方の希望を大切にしながら、医師を含め ての話し合いを持っている。また、終末期に対しての指針 を定めており、説明も十分に行っている。(家族の方、主 治医の協力がある。医療行為は行わない。)職員間の意識 の確認も行っている。</p> <p>(外部評価) 入所時に看取りについて事業所のできることでできないこ とを説明し、利用者や家族の希望を聞いている。緊急時の対 応や方法について、職員が学習する機会を設けている。看 取りの指針を作成し、病院や訪問看護ステーションと連携 を図っている。状態の変化に応じて家族等と話し合いを行 い、安心して最期を迎えられるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や事故時の対応については、定期的に社内の勉強会や研修で実技指導を行ったり、消防署から救急隊員に来てもらい、訓練指導をしてもらっている。また、マニュアルの作成を行い、いつでも閲覧できるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎月、避難訓練を行い、3回/年の訓練時は消防署の協力もあり行っている。今年度も毎月の避難訓練の実施と消防署員立ち合いの夜間想定・津波想定での避難訓練を実施する予定で、災害対策に備えている。近隣の病院や企業に協力の依頼をしている。 (外部評価) 防災訓練を昼夜を想定して年2回、津波訓練を年1回消防署立会いのもと実施している。また、防火管理者を決めて毎月避難訓練の企画書を作成し、危機感を持って訓練に臨んでいる。津波訓練はフジグラン屋上駐車場まで実際に移動してみるなど、いざという時の実効性のある訓練を行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 人生の先輩として、人格を尊重し関わりを持つように心がけている。今後も日々の関わりの中で、利用者の方の誇りやプライバシーを損ねかねない言葉かけや対応を出来ているか、職員同士が声を掛け合い常に気を付けていくようにしていきたい。 (外部評価) 利用者一人ひとりの人格を大切にし、人生の先輩として接するよう心がけている。急に大きな声で呼んだり、後ろから声かけすることのないように、目を見て話すようにしている。気になる声かけや態度があればその都度話し合い、研修会でも確認し合いプライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 質問は分かりやすく、答えやすいように心がけている。会話の中でも、思いや希望が言いやすい雰囲気づくりに取り組んでいる。水分補給時には、コーヒーやココアなどの中から、自己決定できる場面作りに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その人に合わせて、その日をどう過ごしたいかを尋ね、できる限り利用者の方のペースに合わせるように努めているが、外出支援などの時間は職員側の都合になってしまっている場合がある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 入浴時や更衣の時に、なるべく服を選んでもらえるようにしている。起床時に洗顔した時に鏡を見ながら櫛で髪をといてもらったり、整容してもらっている。自分でできない方は、職員がタオルで顔を拭いたり髪をといている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事作りは厨房スタッフが行っているが、時々さやえんどうの筋取り、海老の殻むきの下準備をしてもらっている。食事作りでは、野菜を切ってもらったり、干し柿作りでは柿の皮むきをしている。 (外部評価) 日常会話の中で好きな食べ物を聞き取り、一人ひとりの嗜好や希望を把握し一覧表にして厨房に掲示している。管理栄養士が献立を立て厨房スタッフが調理をしている。利用者には皮むき等、できることを手伝ってもらっている。誕生日には好みのメニューを提供したり、外食の希望があれば一緒に出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士が栄養バランスを考え献立を作成している。排泄記録表に、食事や水分摂取量を記入し、必要量が確保できるように心がけている。また、状態に合わせて、水分量や食事内容などを工夫している	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後には口腔ケアを行うよう声かけをしている。十分でない利用者の方には一部介助をしている。義歯が気になる人は、職員が清潔に管理するなど対応している。定期的に義歯はポリドントをして清潔を保っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 排泄記録表のチェックをして、排泄パターンを知り、その利用者の方に応じた早めの声かけを行っている。始末の仕方やズボンの上げ下げは声をかけて、出来ない部分の介助に心がけている。おむつの使用については、出来るだけ声かけやトイレ誘導を行い、トイレへ座ってもらうようにしている。</p> <p>(外部評価) 水分や食事摂取量、オムツの種類を記載した排泄記録票を基に利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。声かけを行うことによりトイレでの排泄が可能になった利用者もおり、排泄の自立に向けた支援に努めている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 食物繊維の多い芋類・海藻・豆・きのこ・野菜類などは毎日食べてもらっている。水分を十分に補うようにしている。また、リハビリ室の利用やホーム周辺の散歩などを行い、体を動かすようにしている。医師の指示のもと、看護師が下剤の調整をしている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 出来るだけ、希望に近づけるよう努力している。夜間帯は職員が少ないので、行えていない。曜日などは決めておらず、入りたいと希望のある方に入ってもらっている。</p> <p>(外部評価) 入浴の順番は特に決めず、利用者全員に声かけし希望者は毎日入浴することができる。入浴の苦手な利用者は職員が交代で声かけする等配慮し、週2～3回は入浴できるように努めている。好みの入浴剤を使う等、気持ちよく入浴できるように工夫している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) その方に応じて時間帯を考えて、居室で休んでもらうように心がけている。また、ソファや備え付けのベンチなど、ゆっくり過ごせるようにしている。居室だけでなく、共有スペースの環境整備もしている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の説明がされているものをカルテに綴じて理解できるように努力している。また、わからない時には看護師に確認している。症状の変化時には看護師に連絡し、主治医と相談してもらっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 嗜好品については、食事以外でスーパーへ一緒に買い物へ行き、食べてもらったりしている。また、季節ごとに花を見に出かけたり畑で野菜や果物を作り、さくらんぼやじゃがいも掘り、さつまいも掘りをして、収穫の喜びを味わってもらっている。毎日洗濯物をたたんだり、テーブルを拭いている。新聞を折り、ゴミ箱を作っている。ぬり絵を準備し、好きな色でぬってもらう。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩の希望がある方には、他の利用者の方と一緒に庭や周辺を歩いている。利用者の方の希望で買い物に出かけたり、家族の方の協力で一緒に自宅へ帰ったり出来るよう支援している。ユニット間でも声をかけ合い利用者の方が車椅子を利用している方を押し、一緒に外出することもある。 (外部評価) 敷地が広くゆっくり散歩できる環境があり、毎日夕方に散歩する利用者もいる。四季折々に市民の森やマイントピア別子等へ出かけている。利用者数が多いため日程や時間をずらして出かけている。また、利用者一人ひとりの希望により個別に買い物に出たり、家族の協力を得ながら家に帰るなどの外出支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 紛失しないようにお金はホームではお預かりしていない。利用者の方が希望された時にはホームで立て替えし、後日家族の方へ請求をさせてもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話や手紙は、本人さんが連絡を取りたい時などにやり取りができるようにとスタッフも周知しているが、現状本人さんからの希望が少ない。今後本人さんの希望があれば家族の方に働きかけて行く様に努めていく。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 脱衣場では、出来るだけ、温度差がないように気を付けている。ホールには、季節に応じたものを飾るようにしている。状態に応じて、テーブルの配置等も考えるようにしている。レースのカーテンを使用して眩しすぎないようにしている。廊下に備え付けのベンチがあり、ホールにもソファを置いて寛げるようにしている。音も大きな音が出ないように配慮し、大きな音が出た場合には、お断りするようになっている。</p> <p>(外部評価) クラレ社宅を改造して作られた事業所は老朽化は否めないが、内部は職員の工夫で暖かい落ち着いた雰囲気が感じられる。利用者が生け花をして季節の花を飾り、食事時のテーブルの配置や利用者の座席にも工夫が見られる。また、各所にソファを設置し思い思いの場所でくつろぐことができるよう配慮されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) ホールにソファを置き、いつでも誰でも座れるようにしている。また、廊下にも木のベンチを設置し、一人でいたり気の合った人と座って話ができるようにしている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 少しずつではあるが、家で使っていたタンス等、持って来て使っている。出来るだけ利用者の方の希望する物を、本人さんや家族の方と相談し、用意出来るよう努め、居心地よく過ごせるように工夫している。</p> <p>(外部評価) 利用者の希望や状態に応じて畳かベッドを選択することができる。居室にはテレビや布団が常備されており、毛布、枕等は使い慣れた馴染みの物を使用してもらっている。タンス、小物入れ、写真、ぬいぐるみ等を持ち込み、落ち着いて過ごすことができるよう工夫している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 建物内はバリアフリーであり、各所に手すりを設置している。また、環境整備を行い歩行の障害にならないように心がけている。居室には果物の絵を貼り、目印にしている。トイレや浴室にも表示があり、わかりやすくしている。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870600297
法人名	有限会社 エンジェル・コール
事業所名	グループホーム フルーツの家
所在地	愛媛県西条市朔日市807番地
自己評価作成日	平成 25 年 10 月 10 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 11 月 12 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・職員皆で考えた理念である「和やかで、笑顔あふれる生活づくり」に近づけるよう、利用者の方の思いを第一に考え、安心して穏やかに過ごせるよう支援している。
 ・職員は笑顔を大切に、優しい声かけや対応を心がけている。
 ・庭に畑や花壇を作り、季節の野菜や草花の手入れや収穫を利用者の方と一緒にすることで、五感への働きかけをしている。
 ・リハビリ室を設置しており、機能低下の予防やレクリエーションを行い交流の場となっている。
 ・ホームの玄関に掲示板を使用し、行事の写真や予定を貼ってわかりやすくしている。
 ・夏祭り大会や餅つき大会を毎年行い、家族の方々や地域の方々にも参加してもらっている。
 ・年に4回、家族の方に写真付きの手紙を送り、ホームでの暮らしぶりや近況の情報を伝えるにしている。
 ・誕生日や敬老の日、クリスマスのプレゼントは手作りを心がけている。
 ・年2回の防火訓練(消防署員指導)と、毎月1回、避難訓練を行っている。
 ・毎月、実技を取り入れた勉強会や、勤続年数ごとの研修を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。
 ・近隣に協力医療機関があり、1回/2週の往診や希望時はいつでも受診ができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所はクラレの社宅を改造して1棟に3ユニット、広い庭を挟んでもう1棟に2ユニットを開設している。社宅の間取りをうまく利用して、居室やリビング、調理場等を設けている。広い庭には桜や柿等の大きな木や、いたるところに草花が植えられている。畑では野菜を作り、季節を感じることができる。隣接する病院や保育園、企業とも交流がある。運営会社は勉強会に熱心に取組み、職員のレベルアップを図っている。耐震構造の問題で移転する予定があり、職員は「利用者ごとまどうのではないかと、利用者本意に考え検討している。また「笑顔で明るく感謝の気持ちを忘れない。」という今年の目標を掲げ、職員全員が意欲的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 フルーツの家 2号棟

(ユニット名) 4ユニット

記入者(管理者)

氏名 子守 由美

評価完了日 平成 25 年 10 月 10 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念は、職員皆の利用者の方一人一人が、笑って穏やかに生活を送ってもらえるようにとの思いを持ち、勉強会や社内、社外の研修、業務を通して取り組んでいる。また、朝の申し送りで共有できるようにスタッフ全員で理念を復唱している。</p> <p>(外部評価) 開設時に職員で話し合い「和やかで笑顔あふれる生活づくり」という理念を作成し、定期的に見直しも行っているが、職員の思い入れもあり現在も継続して掲げている。理念は申し送り時に唱和し、研修や勉強会でも確認し合い共有して実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 市の相談員、学校、近所の保育園やお店などと交流がある。地域のイベントにも参加している。年に1回、夏祭り大会を開催し、地域の方々に参加してもらっている。また、フルーツの家を一つの地域(自治会)と捉え、自治会長、副会長の選任や役割を決め、ユニット間での交流の場を作るようにしている。</p> <p>(外部評価) 隣接する保育園の行事やクラレの感謝祭等に参加し交流を深めている。クラレ工場内での花見は、一般開放日の前に招待があり、クラレ職員の協力を得ながらゆっくり花見を楽しむことができる。事業所の夏祭りには地域の人や企業の方を招待したり、西条祭りでだんじりを見物するなど積極的に交流している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 市町村と連絡を取り、介護教室や認知症介護を受託している。運営推進会議においても、ミニ介護講座などを取り入れている。中学生の職場体験学習の受け入れを行ったり、高校の授業で講演を行ったりしている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 開催時には、設備やサービス内容、行事などについて沢山の意見を頂いている。話し合う場を持ち改善できる事はすぐに実行、報告している。また、報告書を作成しており職員全員が報告書に目を通し、サービスの向上に努めている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、家族、保育園、郵便局、警察、消防、地域包括支援センター等多方面からの参加を得て開催している。年度初めには年間計画を立て、家族や参加者に配布している。参加できなかった方には会議録や資料を郵送している。事業所の報告や積極的な意見交換を行っている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ホーム内での事故や苦情等は、連絡や相談させてもらっている。何かあった時には、市町村へ連絡し、適切な発言や指導をしてもらい、サービス等の質の向上を図っている。市の相談員が定期的に1度訪問してくれる。3カ月に1度、サービス向上連絡会に出席している。</p> <p>(外部評価) 市職員は運営推進会議に毎回参加している。事業所からは3か月に1回開催される西条市介護サービス向上連絡会に参加して情報交換している。また定期的に介護相談員の訪問があり、アドバイスをもらっている。事故報告もその都度行い、事業所の実情を報告し意見をもらう等、協力関係ができています。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 社内、社外研修、または勉強会を通して理解し、日頃から身体拘束防止に対する意識を高め、スタッフ間で気を付けるようにしている。玄関の施錠は防犯の観点から夜間のみ行っている(20:00~8:00)。</p> <p>(外部評価) 毎月の社内研修会等で、身体拘束について正しく理解できるよう確認している。言葉や態度による拘束についても話し合い、1か月毎のテーマを決めて身体拘束をしないケアを実践している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 社内研修で虐待について学ぶ機会を持っている。また、社外での研修の参加で、学ぶ様になっている。日々の中で、虐待になりかねない行為は、職員間で話し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に出来るだけ参加し、報告書を作成している。職員全員が周知できるように努力している。他ユニットに成年後見制度を利用している方がいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 時間をかけて利用者の方や家族の方が理解し納得できるように話し合っている。その時に限らず、その都度話し合う時間を取っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 気軽に言ってもらえる雰囲気作りを心がけている。運営推進会議、家族会等を定期的に開催し、意見をまとめ、出来る事の改善をしている。また、家族会ではアンケートにて意見や要望を頂き、サービスの質の向上に取り組んでいる。月に1度、市の相談員が来てくれ、相談業務を行ってくれている。 (外部評価) 年に1回、家族会を開催している。スライドで利用者の生活や行事に参加した時の様子を見てもらったり、家族だけで話し合う時間を設け、率直な意見を出してもらっている。また、参加できない家族にはアンケートを送り意見もらっている。出された意見はケース検討会等で共有しサービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見 意見や提案を聞く機会を設け、反映させてい る	(自己評価) 月に1回全員参加の各部署会議や毎朝の申し送り等にて職 員の意見を聞く機会を設けている。また、職員にて各チ ーム（研修チーム、手紙チーム、安全衛生チーム等）を運営 し、意見や提案を取り入れ、反映させている。 (外部評価) 管理者は、職員の意見を個別に聞き取ったり、朝の申し送 り時に聞いている。研修チーム・手紙チーム・安全衛生 チーム・社内新聞チーム・環境整備チームを設け、それぞ れ職員が責任を持ち、積極的に意見やアイデアを出せる仕 組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時 間、やりがいなど、各自が向上心を持って 働けるよう職場環境・条件の整備に努めて いる	(自己評価) 代表者は管理者や各職員個々の努力や勤務状況をその都度 話し合う時間を持ち確認している。また、資格取得に対し ての支援を行い、やりがいや向上心を持って働けるような 職場環境である。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケア の実際と力量を把握し、法人内外の研修を 受ける機会の確保や、働きながらトレー ニングしていくことを進めている	(自己評価) 社内で研修チームを設置し、勤務年数に応じて研修を行っ ている。その他、実技の勉強会もしている。社外での研修 には職員の力量に応じて参加し、研修内容は報告書にて職 員全員が周知できるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流す る機会をつくり、ネットワークづくりや勉 強会、相互訪問等の活動を通じて、サー ビスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 他のホームの運営推進会議に参加させてもらったり、自 ホームの運営推進会議に参加してもらい、同業者と交流す る機会を持ち、良い所を職員間で報告や相談をしたり、助 言を受けたりしながらサービスの質の向上に努めている。 また、社外での研修にて意見交換を行っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が 困っていること、不安なこと、要望等に耳 を傾けながら、本人の安心を確保するた め関係づくりに努めている	(自己評価) サービスの利用開始時には特にゆっくりと時間を取りなが ら、要望について聞きフェイスシートに記入し職員間で共 有している。また、不安が少しでも軽減できるように、 ゆっくりと話をしたり、表情や態度から気持ちが理解でき るように、側で過ごすように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービスの利用開始時には、特に時間を取るよう心がけ、必ず困っていることや不安なこと、意向や要望などを聴くように努めている。新規入居の場合には、小まめに電話連絡や面会時に様子を伝え相談するようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 困っていることなど利用者の方や家族の方の本音を聞けるように努め、今何が必要かを話し合い、相談した上で対応させてもらっている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の方の得意としていることや、昔の職業などを把握し、役割を持ってもらったり教えてもらったりしながら共に暮らしている。また、教えてもらった時には感謝の気持ちを伝えるよう心がけている。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時にはゆっくと過ごしてもらい、生活状況の報告をしている。状態の変化時には、随時報告を行っている。また、行事などもできるだけ利用者の方と過ごしてもらえるように参加の呼びかけをしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会時など馴染みの人とゆっくと過ごす時間を持つよう支援している。馴染みの場所については、お墓参りや以前によく行っていたお花見の場所などに出かけるようにしているが、利用者の方全員への支援はできていない。 (外部評価) 利用者の昔の生活や馴染みの関係を把握しフェイスシートを作成し、利用者毎のファイルにまとめている。利用者の希望で知人に会ったり、電話や手紙のやり取りで関係が途切れないよう支援に努めている。また、新しい馴染みの関係継続の支援にも努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日々のコミュニケーションの中でなるべく職員が間に入るようにしている。状況に応じて職員が見守りなどを行い、利用者の方同士の関係を築けるように配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院中の利用者の方には職員が再々面会に行っており、相談を受けたりすることもある。また、家族との関係がなくならないように連絡し、相談しやすい雰囲気作りを心がけている。また、病棟やケースワーカーを通して病状の把握に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人さんや家族の方が意向を言いやすい様な雰囲気に心がけており、得た情報はフェイスシートを利用し、職員間で情報の共有を行っている。意向を把握しにくい方に関しては、家族の方に相談したり本人さんの表情や言葉から思いをくみ取れるよう努力している。 (外部評価) 入居者情報ノートに勤務者全員がリハビリや入浴等1日の中であったことを記入したり、日常会話で聞いたこと等を利用者の言葉で記入している。大切なことはケース記録に転記して利用者本位に検討している。利用者の表情や声のトーンから気分を読み取る等、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人さんや家族の方から得た情報は、フェイスシートを利用し、職員間で共有している。また、同一法人内の他事業所を利用していた方に関しては、情報を提供してもらっている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) カルテやフェイスシート、アセスメントシートなどを用いて、現状の把握に努めている。また、病状の変化については、その都度カルテに記載し、医師からの指示は赤字で囲み解りやすくしている。大きな変化などは、介護計画書、フェイスシートに付け足し、現状の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 適宜、ケース検討会やサービス担当者会を行い、それぞれの意見を聴き、介護計画書に反映したり、状態の変化時はその都度介護計画書の見直しを行っている。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族の思いや意向を把握し、介護計画に反映させている。家族にも参加してもらいサービス担当者会議を行い、3か月に1回モニタリングを実施し、6か月毎に見直しを行っている。状態に変化があればその都度見直しをしている。職員が自由に見ることができるようファイリングされている。</p>	介護計画に沿ってサービスの提供はされているので、介護計画を意識した実施記録になるよう記載方法等の工夫を望みたい。また、その実施記録に基づいたモニタリングを行い、利用者と共に達成感を味わいながら、さらに質の高いサービスが提供できるよう今後の取組みを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 日々の様子はカルテに記載している。また、気づきや状態の変化は、介護計画書の空きスペースに記入するなどして、介護計画書の見直しに活かしている。情報の共有については、朝夕の申し送りや入居者情報を使い情報を伝達している。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 家族の方の状況に応じて、通院など必要な支援は柔軟に対応するように努めている。また、家族の方からは、リハビリの要望が多く、リハビリ室の利用を行っている。他のユニットや通所介護の方も来るので、馴染みの関係もできている。訪問看護も併設しているので医療面では、フォローしてもらっている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 市の相談員の方や、警察、消防の方などの協力は得られている。また、季節によって利用者の方に合わせて、身近な公園やお花が咲く観光スポット等の地域資源の利用を行っている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 状態の変化に応じて、適宜、協力病院にて受診が行えるよ うになっている。また、本人さんや家族の方の希望を大切 にし、馴染みのかかりつけ医での受診も行っている。</p> <p>(外部評価) 隣接する西条中央病院が協力病院となっており、2週間に 1回の往診がある。歯科医の往診もあり、専門医受診が必 要な場合は家族に付き添ってもらったり、職員が対応した りしている。受診後は受診情報を記録し、関係者が共有し ている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) ホームの職員に看護職がいる。情報や気付きは常に看護師 に報告している。また、訪問看護が併設しており、看護師 が利用者の方と関わる時間もあり、相談もしている。健康 管理や医療面でも協力してもらっている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 主治医、病棟師長、ケースワーカーとの連携を持ち、退院 後の受け入れ態勢を整えるように努めている。また、普段 よりケースワーカーとの関わりを持ったり、医療機関の勉 強会に参加するなど、関係作りに努めている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 本人さんや家族の方の希望を大切にしながら、医師を含め ての話し合いを持っている。また、終末期に対しての指針 を定めており、説明も十分に行っている。(家族の方、主 治医の協力がある。医療行為は行わない。)職員間の意識 の確認も行っている。</p> <p>(外部評価) 入所時に看取りについて事業所のできることでできないこと を説明し、利用者や家族の希望を聞いている。緊急時の対 応や方法について、職員が学習する機会を設けている。看 取りの指針を作成し、病院や訪問看護ステーションと連携 を図っている。状態の変化に応じて家族等と話し合いを行 い、安心して最期を迎えられるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や事故時の対応については、定期的に社内の勉強会や研修で実技指導を行ったり、消防署から救急隊員に来てもらい、訓練指導をしてもらっている。また、マニュアルの作成を行い、いつでも閲覧できるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎月、避難訓練を行い、2回/年の訓練時は消防署の協力もあり行っている。今年度も毎月の避難訓練の実施と消防署員立ち合いの夜間想定での避難訓練を3回/年実施する予定で、災害対策に備えている。近隣の病院や企業に協力の依頼をしている。 (外部評価) 防災訓練を昼夜を想定して年2回、津波訓練を年1回消防署立会いのもと実施している。また、防火管理者を決めて毎月避難訓練の企画書を作成し、危機感を持って訓練に臨んでいる。津波訓練はフジグラン屋上駐車場まで実際に移動してみるなど、いざという時の実効性のある訓練を行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 人生の先輩として、人格を尊重し関わりを持つように心がけている。今後も日々の関わりの中で、職員同士が声を掛け合い常に気を付けていくようにしていきたい。 (外部評価) 利用者一人ひとりの人格を大切にし、人生の先輩として接するよう心がけている。急に大きな声で呼んだり、後ろから声かけすることのないように、目を見て話すようにしている。気になる声かけや態度があればその都度話し合い、研修会でも確認し合いプライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 質問は分かりやすく、答えやすいように心がけている。会話の中でも、思いや希望が言いやすい雰囲気づくりに取り組んでいる。10時の水分補給時には、コーヒーやココアなどの中から、自己決定できる場面づくりに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その人に合わせて、その日をどう過ごしたいかを尋ね、できる限り利用者の方のペースに合わせるように努めているが、外出支援などの時間は職員側の都合になってしまっている場合がある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 入浴時や更衣の時に、なるべく服を選んでもらえるようにしている。起床時に洗顔した時に鏡を見ながら櫛で髪をといてもらったり、整容してもらっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事作りは厨房スタッフが行っているが、一部、エビの皮むき、もやしの根取り、さやえんどうのすじ取り等は利用者の方も一緒に行っている。片付けは出来る利用者の方が時々している。ホールには、スタッフが献立表を手書きし、その日のメニューを見て会話したりしている。 (外部評価) 日常会話の中で好きな食べ物を聞き取り、一人ひとりの嗜好や希望を把握し一覧表にして厨房に掲示している。管理栄養士が献立を立て厨房スタッフが調理をしている。利用者には皮むき等、できることを手伝ってもらっている。誕生日には好みのメニューを提供したり、外食の希望があれば一緒に出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士が栄養バランスを考え献立を作成している。排泄記録表に、食事や水分摂取量を記入し、必要量が確保できるように心がけている。また、状態に合わせて、水分量や食事内容などを工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後には口腔ケアを行うように努めている。義歯が気になる人は、職員が清潔に管理するなど対応している。定期的に義歯はポリドントをして清潔を保っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 排泄記録表のチェックをして、排泄が間に合わない人は早めの声かけを行っている。始末の仕方やズボンの上げ下げは出来るだけ声をかけ、出来ない部分の介助に心がけている。おむつの使用については、出来るだけ声かけやトイレ誘導を行い、トイレへ座ってもらうようにしている。</p> <p>(外部評価) 水分や食事摂取量、オムツの種類を記載した排泄記録票を基に利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。声かけを行うことによりトイレでの排泄が可能になった利用者もおり、排泄の自立に向けた支援に努めている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 食物繊維の多い芋類・海藻・豆・きのこ・野菜類などは毎日食べてもらっている。水分を十分に補うようにしている。また、リハビリ室の利用やホーム周辺の散歩などを行い、体を動かすようにしている。医師の指示のもと、看護師が下剤の調整をしている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 出来るだけ、希望に近づけるよう努力している。夜間帯は職員が少ないので、行えていない。曜日などは決めておらず、入りたいと希望のある方に入ってもらっている。</p> <p>(外部評価) 入浴の順番は特に決めず、利用者全員に声かけし希望者は毎日入浴することができる。入浴の苦手な利用者は職員が交代で声かけする等配慮し、週2～3回は入浴できるように努めている。好みの入浴剤を使う等、気持ちよく入浴できるように工夫している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) その方に応じて時間帯を考えて、居室で休んでもらうように心がけている。また、ソファや備え付けのベンチなど、ゆっくり過ごせるようにしている。居室だけでなく、共有スペースの環境整備もしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の説明がされているものをカルテに綴じて理解できるように努力している。また、わからない時には看護師に確認している。症状の変化時には看護師に連絡し、主治医と相談してもらっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 花の好きな人には、花を育てたり生けてもらったりしている。嗜好品については、食事以外でスーパーへ一緒に買い物へ行き、食べてもらったりしている。また、季節ごとに花を見に出かけたり、畑で野菜を作り、草引きや水やり、収穫など分担して行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者の方の希望で買い物に出かけたり、家族の方の協力で一緒に自宅へ帰ったり出来るよう支援している。ユニット間でも声をかけ合い利用者の方が車椅子を利用している方を押し、一緒に外出することもある。 (外部評価) 敷地が広くゆっくり散歩できる環境があり、毎日夕方に散歩する利用者もいる。四季折々に市民の森やマイントピア別子等へ出かけている。利用者数が多いため日程や時間をずらして出かけている。また、利用者一人ひとりの希望により個別に買い物に出たり、家族の協力を得ながら家に帰るなどの外出支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理のできる人には家族の方と相談の上、お小遣い程度で持ってもらっている。職員がお金を管理している人は、事務に立替え払いをしてもらい、一緒に買い物に出かけている。家族さんには、了解を得ている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人さんの希望に合わせて、電話してもらったりしている。面会后、無事に帰れたのか等、電話している。手紙は、本人さんが書きたい時などにやり取りできるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 脱衣場では、出来るだけ、温度差がないように気を付けている。ホールには、季節に応じたものを飾るようにしている。状態に応じて、テーブルの配置等も考えるようにしている。レースのカーテンを使用して眩しすぎないようにしている。廊下に備え付けのベンチがあり、ホールにもソファを置いて寛げるようにしている。音も大きな音が出ないように配慮し、大きな音が出た場合には、お断りするようになっている。</p> <p>(外部評価) クラレ社宅を改造して作られた事業所は老朽化は否めないが、内部は職員の工夫で暖かい落ち着いた雰囲気が感じられる。利用者が生け花をして季節の花を飾り、食事時のテーブルの配置や利用者の座席にも工夫が見られる。また、各所にソファを設置し思い思いの場所でくつろぐことができるよう配慮されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) ホールにソファを置き、いつでも誰でも座れるようにしている。また、廊下にも木のベンチを設置し、一人でいたり気の合った人と座って話ができるようにしている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 少しずつではあるが、家で使っていた布団や椅子、テーブル等、持って来て使っている。出来るだけ利用者の方の希望する物を、本人さんや家族の方と相談し、用意出来るよう努め、居心地よく過ごせるように工夫している。</p> <p>(外部評価) 利用者の希望や状態に応じて畳かベッドを選択することができる。居室にはテレビや布団が常備されており、毛布、枕等は使い慣れた馴染みの物を使用してもらっている。タンス、小物入れ、写真、ぬいぐるみ等を持ち込み、落ち着いて過ごすことができるよう工夫している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 建物内はバリアフリーであり、各所に手すりを設置している。また、環境整備を行い歩行の障害にならないように心がけている。居室には果物の絵を貼り、目印にしている。トイレや浴室にも表示があり、わかりやすくしている。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870600297
法人名	有限会社 エンジェル・コール
事業所名	グループホーム フルーツの家
所在地	愛媛県西条市朔日市807番地
自己評価作成日	平成 25 年 10 月 10 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・職員皆で考えた理念である「和やかで、笑顔あふれる生活づくり」に近づけるよう、利用者の方の思いを第一に考え、安心して穏やかに過ごせるよう支援している。
 ・職員は笑顔を大切に、優しい声かけや対応を心がけている。
 ・庭に畑や花壇を作り、季節の野菜や草花の手入れや収穫を利用者の方と一緒にすることで、五感への働きかけをしている。
 ・リハビリ室を設置しており、機能低下の予防やレクリエーションを行い交流の場となっている。
 ・ホームの玄関に掲示板を使用し、行事の写真や予定を貼ってわかりやすくしている。
 ・夏祭り大会や餅つき大会を毎年行い、家族の方々や地域の方々にも参加してもらっている。
 ・年に4回、家族の方に写真付きの手紙を送り、ホームでの暮らしぶりや近況の情報を伝えるにしている。
 ・誕生日や敬老の日、クリスマスのプレゼントは手作りを心がけている。
 ・年2回の防火訓練(消防署員指導)と、毎月1回、避難訓練を行っている。
 ・毎月、実技を取り入れた勉強会や、勤続年数ごとの研修を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。
 ・近隣に協力医療機関があり、1回/2週の往診や希望時はいつでも受診ができる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 11 月 12 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所はクラレの社宅を改造して1棟に3ユニット、広い庭を挟んでもう1棟に2ユニットを開設している。社宅の間取りをうまく利用して、居室やリビング、調理場等を設けている。広い庭には桜や柿等の大きな木や、いたるところに草花が植えられている。畑では野菜を作り、季節を感じることができる。隣接する病院や保育園、企業とも交流がある。運営会社は勉強会に熱心に取組み、職員のレベルアップを図っている。耐震構造の問題で移転する予定があり、職員は「利用者ごとまどうのではないか。」と、利用者本意に考え検討している。また「笑顔で明るく感謝の気持ちを忘れない。」という今年の目標を掲げ、職員全員が意欲的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 フルーツの家 2号棟

(ユニット名) 5ユニット

記入者(管理者)

氏名 子守 由美

評価完了日 平成 25 年 10 月 10 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念は、職員皆の利用者の方一人一人が、笑って穏やかに生活を送ってもらえるようにとの思いを持ち、勉強会や社内、社外の研修、業務を通して取り組んでいる。また、朝の申し送りで共有できるようにスタッフ全員で理念を復唱している。</p> <p>(外部評価) 開設時に職員で話し合い「和やかで笑顔あふれる生活づくり」という理念を作成し、定期的に見直しも行っているが、職員の思い入れもあり現在も継続して掲げている。理念は申し送り時に唱和し、研修や勉強会でも確認し合い共有して実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 市の相談員、学校、近所の保育園やお店などと交流がある。地域のイベントにも参加している。年に1回、夏祭り大会を開催し、地域の方々に参加してもらっている。また、フルーツの家を一つの地域(自治会)と捉え、自治会長、副会長の選任や役割を決め、ユニット間での交流の場を作るようにしている。</p> <p>(外部評価) 隣接する保育園の行事やクラレの感謝祭等に参加し交流を深めている。クラレ工場内での花見は、一般開放日の前に招待があり、クラレ職員の協力を得ながらゆっくり花見を楽しむことができる。事業所の夏祭りには地域の人や企業の方を招待したり、西条祭りでだんじりを見物するなど積極的に交流している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 市町村と連絡を取り、介護教室や認知症介護を受託している。運営推進会議においても、ミニ介護講座などを取り入れている。中学生の職場体験学習の受け入れを行ったり、高校の授業で講演を行ったりしている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 開催時には、設備やサービス内容、行事などについて沢山の意見を頂いている。話し合う場を持ち改善できる事はすぐに実行、報告している。また、報告書を作成しており職員全員が報告書に目を通し、サービスの向上に努めている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、家族、保育園、郵便局、警察、消防、地域包括支援センター等多方面からの参加を得て開催している。年度初めには年間計画を立て、家族や参加者に配布している。参加できなかった方には会議録や資料を郵送している。事業所の報告や積極的な意見交換を行っている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ホーム内での事故や苦情等は、連絡や相談させてもらっている。何かあった時には、市町村へ連絡し、適切な発言や指導をしてもらい、サービス等の質の向上を図っている。市の相談員が定期的に1度訪問してくれる。3カ月に1度、サービス向上連絡会に出席している。</p> <p>(外部評価) 市職員は運営推進会議に毎回参加している。事業所からは3か月に1回開催される西条市介護サービス向上連絡会に参加して情報交換している。また定期的に介護相談員の訪問があり、アドバイスをもらっている。事故報告もその都度行い、事業所の実情を報告し意見をもらう等、協力関係ができています。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 社内、社外研修、または勉強会を通して理解し、日頃から身体拘束防止に対する意識を高め、スタッフ間で気を付けるようにしている。玄関の施錠は防犯の観点から夜間のみ行っている(20:00~8:00)。</p> <p>(外部評価) 毎月の社内研修会等で、身体拘束について正しく理解できるよう確認している。言葉や態度による拘束についても話し合い、1か月毎のテーマを決めて身体拘束をしないケアを実践している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 社内研修で虐待について学ぶ機会を持っている。また、社外での研修の参加で、学ぶ様になっている。日々の中で、虐待になりかねない行為は、職員間で話し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に出来るだけ参加し、報告書を作成している。職員全員が周知できるように努力している。他ユニットに成年後見制度を利用している方がいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 時間をかけて利用者の方や家族の方が理解し納得できるように話し合っている。その時に限らず、その都度話し合う時間を取っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 気軽に言ってもらえる雰囲気作りを心がけている。運営推進会議、家族会等を定期的で開催し、意見をまとめ、出来る事の改善をしている。また、家族会ではアンケートにて意見や要望を頂き、サービスの質の向上に取り組んでいる。月に1度、市の相談員が来てくれ、相談業務を行ってくれている。 (外部評価) 年に1回、家族会を開催している。スライドで利用者の生活や行事に参加した時の様子を見てもらったり、家族だけで話し合う時間を設け、率直な意見を出してもらっている。また、参加できない家族にはアンケートを送り意見もらっている。出された意見はケース検討会等で共有しサービス向上に活かしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見 意見や提案を聞く機会を設け、反映させてい る	(自己評価) 月に1回全員参加の各部署会議や毎朝の申し送り等にて職 員の意見を聞く機会を設けている。また、職員にて各チ ーム（研修チーム、手紙チーム、安全衛生チーム等）を運営 し、意見や提案を取り入れ、反映させている。 (外部評価) 管理者は、職員の意見を個別に聞き取ったり、朝の申し送 り時に聞いている。研修チーム・手紙チーム・安全衛生 チーム・社内新聞チーム・環境整備チームを設け、それぞ れ職員が責任を持ち、積極的に意見やアイデアを出せる仕 組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時 間、やりがいなど、各自が向上心を持って 働けるよう職場環境・条件の整備に努めて いる	(自己評価) 代表者は管理者や各職員個々の努力や勤務状況をその都度 話し合う時間を持ち確認している。また、資格取得に対し ての支援を行い、やりがいや向上心を持って働けるような 職場環境である。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケア の実際と力量を把握し、法人内外の研修を 受ける機会の確保や、働きながらトレー ニングしていくことを進めている	(自己評価) 社内で研修チームを設置し、勤務年数に応じて研修を行っ ている。その他、実技の勉強会もしている。社外での研修 には職員の力量に応じて参加し、研修内容は報告書にて職 員全員が周知できるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流す る機会をつくり、ネットワークづくりや勉 強会、相互訪問等の活動を通じて、サー ビスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 他のホームの運営推進会議に参加させてもらったり、自 ホームの運営推進会議に参加してもらい、同業者と交流す る機会を持ち、良い所を職員間で報告や相談をしたり、助 言を受けたりしながらサービスの質の向上に努めている。 また、社外での研修にて意見交換を行っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が 困っていること、不安なこと、要望等に耳 を傾けながら、本人の安心を確保するた め関係づくりに努めている	(自己評価) サービスの利用開始時には特にゆっくりと時間を取りなが ら、要望について聞きフェイスシートに記入し職員間で共 有している。また、不安が少しでも軽減できるように、 ゆっくりと話をしたり、表情や態度から気持ちが理解でき るように、側で過ごすように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービスの利用開始時には、特に時間を取るよう心がけ、必ず困っていることや不安なこと、意向や要望などを聴くように努めている。新規入居の場合には、小まめに電話連絡や面会時に様子を伝え相談するようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 困っていることなど利用者の方や家族の方の本音を聞けるように努め、今何が必要かを話し合い、相談した上で対応させてもらっている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の方の得意としている事や、昔の職業などを把握し、役割を持ってもらったり教えてもらったりしながら共に暮らしている。また、教えてもらった時には感謝の気持ちを伝えるよう心がけている。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時にはゆっくと過ごしてもらい、生活状況の報告をしている。状態の変化時には、随時報告を行っている。また、行事などもできるだけ利用者の方と過ごしてもらえるように参加の呼びかけをしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会時など馴染みの人とゆっくと過ごす時間を持つよう支援している。馴染みの場所については、お墓参りや以前によく行っていたお花見の場所などに出かけるようにしているが、利用者の方全員への支援はできていない。 (外部評価) 利用者の昔の生活や馴染みの関係を把握しフェイスシートを作成し、利用者毎のファイルにまとめている。利用者の希望で知人に会ったり、電話や手紙のやり取りで関係が途切れないよう支援に努めている。また、新しい馴染みの関係継続の支援にも努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日々のコミュニケーションの中でなるべく職員が間に入るようにしている。状況に応じて職員が見守りなどを行い、利用者の方同士の関係を築けるように配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院中の利用者の方には職員が再々面会に行っており、相談を受けたりすることもある。また、家族との関係がなくならないように連絡し、相談しやすい雰囲気作りを心がけている。また、病棟やケースワーカーを通して病状の把握に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人さんや家族の方が意向を言いやすい様な雰囲気に心がけており、得た情報はフェイスシートを利用し、職員間で情報の共有を行っている。意向を把握しにくい方に関しては、家族の方に相談したり本人さんの表情や言葉から思いをくみ取れるよう努力している。 (外部評価) 入居者情報ノートに勤務者全員がリハビリや入浴等1日の中であったことを記入したり、日常会話で聞いたこと等を利用者の言葉で記入している。大切なことはケース記録に転記して利用者本位に検討している。利用者の表情や声のトーンから気分を読み取る等、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人さんや家族の方から得た情報は、フェイスシートを利用し、職員間で共有している。また、同一法人内の他事業所を利用していた方に関しては、情報を提供してもらっている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) カルテやフェイスシート、アセスメントシートなどを用いて、現状の把握に努めている。また、病状の変化については、その都度カルテに記載し、医師からの指示は赤字で囲み解りやすくしている。大きな変化などは、介護計画書、フェイスシートに付け足し、現状の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 適宜、ケース検討会やサービス担当者会を行い、それぞれの意見を聴き、介護計画書に反映したり、状態の変化時はその都度介護計画書の見直しを行っている。 (外部評価) 利用者や家族の思いや意向を把握し、介護計画に反映させている。家族にも参加してもらいサービス担当者会議を行い、3か月に1回モニタリングを実施し、6か月毎に見直しを行っている。状態に変化があればその都度見直しをしている。職員が自由に見ることができるようファイリングされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子はカルテに記載している。また、気づきや状態の変化は、介護計画書の空きスペースに記入するなどして、介護計画書の見直しに活かしている。情報の共有については、朝夕の申し送りや入居者情報を使い情報を伝達している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 家族の方の状況に応じて、通院など必要な支援は柔軟に対応するように努めている。また、家族の方からは、リハビリの要望が多く、リハビリ室の利用を行っている。他のユニットや通所介護の方も来るので、馴染みの関係もできている。訪問看護も併設しているので医療面では、フォローしてもらっている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 市の相談員の方や、警察、消防の方などの協力は得られている。また、季節によって利用者の方に合わせて、身近な公園やお花が咲く観光スポット等の地域資源の利用を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 状態の変化に応じて、適宜、協力病院にて受診が行えるよ うになっている。また、本人さんや家族の方の希望を大切 にし、馴染みのかかりつけ医での受診も行っている。</p> <p>(外部評価) 隣接する西条中央病院が協力病院となっており、2週間に 1回の往診がある。歯科医の往診もあり、専門医受診が必 要な場合は家族に付き添ってもらったり、職員が対応した りしている。受診後は受診情報を記録し、関係者が共有し ている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) ホームの職員に看護職がいる。情報や気付きは常に看護師 に報告している。また、訪問看護が併設しており、看護師 が利用者の方と関わる時間もあり、相談もしている。健康 管理や医療面でも協力してもらっている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 主治医、病棟師長、ケースワーカーとの連携を持ち、退院 後の受け入れ態勢を整えるように努めている。また、普段 よりケースワーカーとの関わりを持ったり、医療機関の勉 強会に参加するなど、関係作りに努めている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 本人さんや家族の方の希望を大切にしながら、医師を含め ての話し合いを持っている。また、終末期に対しての指針 を定めており、説明も十分に行っている。(家族の方、主 治医の協力がある。医療行為は行わない。)職員間の意識 の確認も行っている。</p> <p>(外部評価) 入所時に看取りについて事業所のできることでできないこと を説明し、利用者や家族の希望を聞いている。緊急時の対 応や方法について、職員が学習する機会を設けている。看 取りの指針を作成し、病院や訪問看護ステーションと連携 を図っている。状態の変化に応じて家族等と話し合いを行 い、安心して最期を迎えられるよう努めている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や事故時の対応については、定期的に社内の勉強会や研修で実技指導を行ったり、消防署から救急隊員に来てもらい、訓練指導をしてもらっている。また、マニュアルの作成を行い、いつでも閲覧できるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎月、避難訓練を行い、2回/年の訓練時は消防署の協力もあり行っている。今年度も毎月の避難訓練の実施と消防署員立ち合いの夜間想定での避難訓練を3回/年実施する予定で、災害対策に備えている。近隣の病院や企業に協力の依頼をしている。 (外部評価) 防災訓練を昼夜を想定して年2回、津波訓練を年1回消防署立会いのもと実施している。また、防火管理者を決めて毎月避難訓練の企画書を作成し、危機感を持って訓練に臨んでいる。津波訓練はフジグラン屋上駐車場まで実際に移動してみるなど、いざという時の実効性のある訓練を行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 人生の先輩として、人格を尊重し関わりを持つように心がけている。今後も日々の関わりの中で、職員同士が声を掛け合い常に気を付けていくようにしていきたい。 (外部評価) 利用者一人ひとりの人格を大切にし、人生の先輩として接するよう心がけている。急に大きな声で呼んだり、後ろから声かけすることのないように、目を見て話すようにしている。気になる声かけや態度があればその都度話し合い、研修会でも確認し合いプライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 質問は分かりやすく、答えやすいように心がけている。会話の中でも、思いや希望が言いやすい雰囲気づくりに取り組んでいる。10時の水分補給時には、コーヒーやココアなどの中から、自己決定できる場面づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その人に合わせて、その日をどう過ごしたいかを尋ね、できる限り利用者の方のペースに合わせるように努めているが、外出支援などの時間は職員側の都合になってしまっている場合がある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 入浴時や更衣の時に、なるべく服を選んでもらえるようにしている。起床時に洗顔した時に鏡を見ながら櫛で髪をといてもらったり、整容してもらっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事作りは厨房スタッフが行っているが、一部、エビの皮むき、もやしの根取り、さやえんどうのすじ取り等は利用者の方も一緒に行っている。片付けは出来る利用者の方が時々している。ホールには、スタッフが献立表を手書きし、その日のメニューを見て会話したりしている。	
			(外部評価) 日常会話の中で好きな食べ物を聞き取り、一人ひとりの嗜好や希望を把握し一覧表にして厨房に掲示している。管理栄養士が献立を立て厨房スタッフが調理をしている。利用者には皮むき等、できることを手伝ってもらっている。誕生日には好みのメニューを提供したり、外食の希望があれば一緒に出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士が栄養バランスを考え献立を作成している。排泄記録表に、食事や水分摂取量を記入し、必要量が確保できるように心がけている。また、状態に合わせて、水分量や食事内容などを工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後には口腔ケアを行うように努めている。義歯が気になる人は、職員が清潔に管理するなど対応している。定期的に義歯はポリドントをして清潔を保っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 排泄記録表のチェックをして、排泄が間に合わない人は早めの声かけを行っている。始末の仕方やズボンの上げ下げは出来るだけ声をかけ、出来ない部分の介助に心がけている。おむつの使用については、出来るだけ声かけやトイレ誘導を行い、トイレへ座ってもらうようにしている。</p> <p>(外部評価) 水分や食事摂取量、オムツの種類を記載した排泄記録票を基に利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。声かけを行うことによりトイレでの排泄が可能になった利用者もおり、排泄の自立に向けた支援に努めている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 食物繊維の多い芋類・海藻・豆・きのこ・野菜類などは毎日食べてもらっている。水分を十分に補うようにしている。また、リハビリ室の利用やホーム周辺の散歩などを行い、体を動かすようにしている。医師の指示のもと、看護師が下剤の調整をしている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 出来るだけ、希望に近づけるよう努力している。夜間帯は職員が少ないので、行えていない。曜日などは決めておらず、入りたいと希望のある方に入ってもらっている。</p> <p>(外部評価) 入浴の順番は特に決めず、利用者全員に声かけし希望者は毎日入浴することができる。入浴の苦手な利用者は職員が交代で声かけする等配慮し、週2～3回は入浴できるように努めている。好みの入浴剤を使う等、気持ちよく入浴できるように工夫している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) その方に応じて時間帯を考えて、居室で休んでもらうように心がけている。また、ソファや備え付けのベンチなど、ゆっくり過ごせるようにしている。居室だけでなく、共有スペースの環境整備もしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の説明がされているものをカルテに綴じて理解できるように努力している。また、わからない時には看護師に確認している。症状の変化時には看護師に連絡し、主治医と相談してもらっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 花の好きな人には、花を育てたり生けてもらったりしている。嗜好品については、食事以外でスーパーへ一緒に買い物へ行き、食べてもらったりしている。また、季節ごとに花を見に出かけたり、畑で野菜を作り、草引きや水やり、収穫など分担して行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者の方の希望で買い物に出かけたり、家族の方の協力で一緒に自宅へ帰ったり出来るよう支援している。ユニット間でも声をかけ合い利用者の方が車椅子を利用している方を押し、一緒に外出することもある。 (外部評価) 敷地が広くゆっくり散歩できる環境があり、毎日夕方に散歩する利用者もいる。四季折々に市民の森やマイントピア別子等へ出かけている。利用者数が多いため日程や時間をずらして出かけている。また、利用者一人ひとりの希望により個別に買い物に出たり、家族の協力を得ながら家に帰るなどの外出支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理のできる人には家族の方と相談の上、お小遣い程度で持ってもらっている。職員がお金を管理している人は、事務に立替え払いをしてもらい、一緒に買い物に出かけている。家族さんには、了解を得ている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人さんの希望に合わせて、電話してもらったりしている。面会后、無事に帰れたのか等、電話している。手紙は、本人さんが書きたい時などにやり取りできるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 脱衣場では、出来るだけ、温度差がないように気を付けている。ホールには、季節に応じたものを飾るようにしている。状態に応じて、テーブルの配置等も考えるようにしている。レースのカーテンを使用して眩しすぎないようにしている。廊下に備え付けのベンチがあり、ホールにもソファを置いて寛げるようにしている。音も大きな音が出ないように配慮し、大きな音が出た場合には、お断りするようになっている。</p> <p>(外部評価) クラレ社宅を改造して作られた事業所は老朽化は否めないが、内部は職員の工夫で暖かい落ち着いた雰囲気が感じられる。利用者が生け花をして季節の花を飾り、食事時のテーブルの配置や利用者の座席にも工夫が見られる。また、各所にソファを設置し思い思いの場所でくつろぐことができるよう配慮されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) ホールにソファを置き、いつでも誰でも座れるようにしている。また、廊下にも木のベンチを設置し、一人でいたり気の合った人と座って話ができるようにしている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 少しずつではあるが、家で使っていた布団や椅子、テーブル等、持って来て使っている。出来るだけ利用者の方の希望する物を、本人さんや家族の方と相談し、用意出来るよう努め、居心地よく過ごせるように工夫している。</p> <p>(外部評価) 利用者の希望や状態に応じて畳かベッドを選択することができる。居室にはテレビや布団が常備されており、毛布、枕等は使い慣れた馴染みの物を使用してもらっている。タンス、小物入れ、写真、ぬいぐるみ等を持ち込み、落ち着いて過ごすことができるよう工夫している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 建物内はバリアフリーであり、各所に手すりを設置している。また、環境整備を行い歩行の障害にならないように心がけている。居室には果物の絵を貼り、目印にしている。トイレや浴室にも表示があり、わかりやすくしている。</p>	